

【論文】

若狭小浜藩主酒井家の墓制 —江戸と国元、本葬と分霊—

関根達人

はじめに

大名墓の本格的な考古学的研究は、1958～60年に鈴木尚氏を中心に行われた増上寺徳川将軍家墓所の調査（鈴木・矢島・山辺1967）を嚆矢とする。その後も墓所の再整備や改葬などを契機として、陸奥仙台藩主伊達家経ヶ峯墓所（伊東編1979・1985）、越後長岡藩主牧野家の江戸済海寺墓所（港区教育委員会1986）、池上本門寺の肥後熊本藩細川家墓所（坂詰編2004）、寛永寺徳川将軍家御裏方墓所（寛永寺谷中徳川家近世墓所調査団編2012）などで大名墓の発掘調査が行われ、次第に埋葬施設や副葬品の様相が明らかになってきた（谷川1991・1996、松本1992、今野2013ほか）。

大名墓は城郭とならぶ近世城下町の重要施設と認識されるようになり、近年、全国の城下町で大名墓所の調査とそれに基づく史跡指定が相次いでいる。それに伴い墓所の測量や墓標の実測といった大名墓所の基礎的調査が行われるようになった（金沢市2008、高岡市教育委員会2008、彦根市教育委員会2009、幸田町教育委員会2012・2013、諏訪市教育委員会2013、香川県立ミュージアム2015、久留米市教育委員会2015・2017、高知県2015、鹿児島市教育委員会2017、茅野市教育委員会2017など）。このうち埋葬施設の発掘調査を伴うのは、愛知県幸田町の本光寺にある肥前島原藩主深津松平家2代藩主（深津松平家3代当主）の松平忠雄墓（幸田町教育委員会2012・2013）など少数にとどまるが、墓標などの地上施設や墓所に関する知見は確実に蓄積されている。

考古学の分野でも大名墓への関心は高く、2010年には「近世大名墓所の調査と課題」をテーマに立正大学考古学フォーラムが開催された（立正大学考古学研究会2010）ほか、この年からは毎年、大名墓研究会が開かれ、2018年の10回大会では「近世大名墓研究の到達点」が示された（大名墓研究会編2010～2018）。出版物に関しても、2010年には坂詰秀一氏監修の『近世大名墓所総覧』、2013年には季刊考古学の別冊として『近世大名墓の世界』、2012年には松原典明氏の『近世大名葬制の考古学的研究』、2014年には近世大名墓研究会による『近世大名墓の成立』、2015年には『月刊文化財』626号で「大名墓所が語る近世社会」の特集が組まれるなど、考古学では大名墓研究は近年とりわけ進展著しい分野といえる。

ところで近世大名墓には、遺体が埋葬された墓と遺体を伴わない詣り墓が存在する。筆者は近世大名墓におけるこの2種類の墓制に注目し、それを本葬・分霊という概念で説明した（関根

2002)。近世大名の本葬墓と分霊墓は、表面上、現象としては両墓制における「埋め墓」と「詣り墓」と類似して見えるが、本質的には全く異なる原理に基づいている。すなわち、近世大名墓における本葬・分霊は、基本的には寛永12年（1635）に3代将軍徳川家光が定めた『武家諸法度』により制度化された参勤交代と、慶長期以降に大名間に爆発的に広まった紀州高野山奥の院への造墓ブームに起因するもので、両墓制における遺体への忌避とは真逆の、遺骨を筆頭に髪の毛や爪など故人の体の一部を尊重する思考が働いている。すなわち、参勤交代制により国元と江戸の二重生活を強いられた遠国の大名の多くが、国元と江戸の両方に菩提寺を持ち、どちらか一方に遺体を納めた本葬墓を、もう一方に毛髪・爪・位牌といった遺体の代わりとなるものを納めた分霊墓を営んだ。加えて12世紀以来全国屈指の納骨霊場として名高い紀州高野山奥の院にも慶長期以降、全国の諸大名の半数弱が墓所を営むようになった結果、一人の大名の墓が国元・江戸・高野山に複数存在する現象が生じることとなった。本葬・分霊こそが近世大名墓と他の時代の支配者の墓や同時代の大名以外の人々の墓との最大の違いといっても過言ではない。

近世大名墓研究は近年目覚ましい進歩を遂げているが、藩主を頂点とした社会（藩）全体の中で大名墓の位置づけや、国元と江戸、本葬と分霊という視点での比較研究は、課題を残している¹⁾。墓標についても大名墓を藩全体の中で位置づけるためには、単に大名家墓所だけでなく、城下町の墓標の悉皆調査が不可欠である。しかし現実には近世墓標の多くは戒名と没年しか刻まず、俗名が刻まれていたとしても、その人物が何者であるかまでは、歴史に名を残した余程の人物でもなければ、分からない（関根2018）。一方、大名家墓所に奉納された石灯籠には奉納者の名前が刻まれており、藩主と一族、藩主と家臣との関係性を考える上で極めて重要な歴史資料といえる。石灯籠に名前が刻まれた大名家の一族や家臣の多くは、家臣名簿などの手助けなしには家格や石高などその人物の社会的地位を知ることはできないし、社会的に位置づけられなければ、石灯籠を奉納された側と奉納した側の関係性を論じることはできない。

本稿では、筆者らが国元の近世墓標の悉皆調査の際に藩士データベースを作成した小浜藩を取り上げ、小浜藩全体の中で藩主酒井家の墓を位置づけるとともに、国元と江戸、本葬と分霊という視点で比較を試みる。

1. 若狭小浜藩主酒井家の墓所

小浜藩は、若狭国小浜を中心として、大飯・三方・敦賀・近江国高島郡の一部を領有した譜代の中藩である（大石編2006）。小浜の領主は、近世初期には浅野長政（1587～1593年）、木下勝俊（1593～1600年）、京極高次・忠高（1600～1634年）と推移したが、寛永11年（1634）以降は幕末まで酒井家が小浜を統治した。

小浜藩主酒井家は、酒井雅楽頭家5代目当主正親の3男忠利に始まる。忠利は慶長14年（1609）、駿河田中1万石から武蔵川越3万7千石に加増を受け、3代将軍家光の傅役を務めた。忠利の嫡男忠勝は、寛永11年（1634）、若狭・越前敦賀郡11万3千5百石を拝領した。小浜藩主酒井

家は、彦根藩主井伊家とともに転封がなく長きにわたり同じ場所を統治した点で、譜代大名の中では異例といえる。小浜藩主酒井家は、初代忠勝・5代忠音、10代忠進が老中、12代忠義は京都所司代、七代忠用も大坂城代を勤めるなど、幕政に関わる要職に任じられることが多かった（島津1970）。

筆者らは科学研究費補助金基盤研究A「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」の一環として、2016・17年に福井県小浜市の旧市街地周辺の34ヶ寺と2ヶ所の墓地の計36ヶ所で行った計11155基、被供養者数にして17656人分の中近世墓標の調査（関根編2018）に併行して、墓標や墓前に奉献された石灯籠に刻まれた人物の社会的地位を知るため、小浜藩の藩士データベースを作成した²⁾。また、研究分担者の岩淵令治氏を中心に小浜市立図書館が所蔵する酒井家文書について葬送関係史料を調査した。

酒井家の墓所としては江戸牛込の下屋敷南端にあった長安寺と小浜の空印寺が有名である。長安寺の酒井家墓所は、関東大震災を契機とする土地区画整理に伴い大正13年（1924）に改葬が行われ、空印寺に合祀された。その際に長安寺から空印寺の酒井家墓所に移設された墓標は28基確認されるが、被葬者の分かるものはいずれも子女や家臣であり、藩主や室の墓標は含まれていない。大正13年（1924）の改葬記録を調べた岩淵令治氏によれば、藩主や裏方のような大型の墓標をはじめ、石灯籠・敷石・手水鉢³⁾などは、改葬に要する費用に充てるため東京市内の石材業者3社に売却されている（岩淵2018）。改葬の際に作成された記録類は、大名墓の実態を知る上で大変貴重である。

「墓所整頓計画案」（小浜市立図書館酒井家文庫資料番号11-43-5）によれば、藩主酒井家歴代の墓は長安寺や空印寺のほか、江戸の護国寺、小浜の心光寺、紀州高野山蓮花院（大徳院）、日光輪王寺妙道院にもあり、それに裏方・子女・その他を加えると、酒井家の墓所は19ヶ寺、墓標数は合計114基を数える（表1）。江戸では下屋敷のあった牛込周辺の寺院と谷中の寺院が比較的多い。

はじめに藩主と正室の墓の所在地について検討する。

藩主の本葬墓は死亡地の菩提寺に営まれている（表2）。すなわち、初代小浜藩主忠勝の父忠利は小浜に転封される前の領地であった武蔵川越の源昌寺に、忠勝以降は国元で死亡した場合は小浜の空印寺に、江戸で亡くなった場合には長安寺に埋葬された。明治6年（1873）に東京で死亡した14代藩主忠禄は東京の長安寺跡酒井家墓所に葬られ、小浜の空印寺には位牌はあるものの、分霊墓は営まれなかった。また明治9年に高浜で死亡した13代忠氏は小浜の空印寺に葬られ、東京の長安寺跡酒井家墓所には分霊墓は造られなかった。すなわち、明治4年（1871）の廃藩置県を境に、それ以前に死亡した藩主は例外なく分霊墓が営まれたのに対し、廃藩置県後は分霊墓が造営されることはなくなった。藩の消滅により分霊墓は不要となったのである。

分霊墓は川越で死亡した忠利以外、国元で死亡した藩主は江戸の長安寺に、江戸で死亡した藩主は小浜の空印寺に営まれた。忠利の分霊墓は滋賀県守山市の源昌寺と栃木県日光市の輪王寺釈迦堂に存在する。前者は、本葬墓のあった川越の源昌寺が酒井家が小浜に転封となった後の元禄4年

表1 若狭小浜藩主酒井家の墓所一覧

	墓 所				墓 数					備 考
	宗派	山号	寺院名	所在地	歴代	裏方	子女	その他	計	
大正十三年(一九二四)改葬対象	曹洞宗	延命山	長安寺	東京都新宿区矢来町	7	5	26		38	江戸牛込の酒井家下屋敷内 大正13年(1924)廃寺
					5				5	(墓標のみ)
	曹洞宗	天桂山	傑傳寺	埼玉県川口市東本郷				1	1	寺名は忠勝の戒名「空印寺殿傑傳長英大居士」による
	浄土宗	金剛山	大信寺	中野(寺は東京都新宿区横寺町)			2		2	
						1			1	(墓標のみ)
	日蓮宗	慈雲山	瑞輪寺	東京都台東区谷中		2	1		3	
	浄土宗	道本山	靈巖寺	東京都江東区白河		1			1	幕末江戸の7大茶毘所のひとつ
	日蓮宗	長久山	本行寺	東京都荒川区西日暮里		1			1	
	浄土真宗	光照山	西徳寺	東京都台東区亀泉		1			1	
	臨濟宗	瑞泉山	祥雲寺	東京都渋谷区広尾		1			1	大徳寺派 筑前福岡藩主黒田家菩提寺
	臨濟宗	佛日山	東禅寺	東京都港区高輪		1			1	妙心寺派 江戸四箇寺のひとつ
	臨濟宗	蔭涼山	濟松寺	東京都新宿区榎町			1	2	3	妙心寺派
	浄土宗	不退山	正定院	東京都新宿区横寺町				1	1	宝国寺
									1	(墓標のみ)
真言宗	金剛山	多聞院	東京都新宿区西新宿(淀橋角筈)					1	豊山派 戦災で焼失後に埼玉県所沢市に移転	
曹洞宗	妙徳山	長源寺	東京都新宿区横寺町					1		
曹洞宗	建康山	空印寺	福井県小浜市小浜男山	7	2	10		19	山号は忠利の戒名「廣徳院殿泰雲建康大居士」、寺名は忠勝の「空印寺殿傑傳長英大居士」による	
				4				4	(墓標のみ)	
曹洞宗	南陽山	源昌寺	埼玉県川越市			1		1	酒井家小浜転封に伴い廃寺	
真言宗	神齡山	護国寺	東京都文京区大塚	1	1	1		3	豊山派	
浄土宗	常照山	心光寺	福井県小浜市小浜大宮		2		4	6	寺名は忠勝側室竹子の戒名「心光院殿生誉瑠琳大姉」による	
				1				1	(墓標のみ)	
真言宗	高野山	蓮花院	和歌山県伊都郡高野町高野山	1					大徳院	
				3	2	8	3	16	(墓標のみ)	
天台宗	日光山	輪王寺	栃木県日光市本町	1				1	妙道院釈迦堂	
				1				1	(酒井忠利の駒形墓標のみ)	
合 計					31	20	50	14	114	

■ 墓標のみ = 分霊墓のみ

「墓所整頓計画案」(小浜市立図書館酒井家文庫資料番号11-43-5)に基づき作成

表2 若狭小浜藩主酒井家当主の本葬墓・分霊墓・改葬墓

続柄等	俗名	没年	戒名	死亡地	本葬墓	分霊墓	改葬墓
初代父	酒井 忠利	寛永4年(1627)11月14日	廣徳院殿泰雲建康大居士 大性院月桂宗識居士	川越	源昌寺(川越)	源昌寺(守山) 輪王寺釈迦堂(日光)	長安寺(江戸) 空印寺(小浜)
初代藩主	酒井 忠勝	寛文2年(1662)7月12日	空印寺殿傑傳長英大居士	江戸	長安寺(江戸)	空印寺(小浜) 傑傳寺(江戸)位牌寺	空印寺(小浜)
2代藩主	酒井 忠直	天和2年(1682)7月10日	勇巖院殿独立空山大居士	小浜	空印寺(小浜)	長安寺(江戸)	
3代藩主	酒井 忠隆	貞享3年(1686)閏3月21日	高台院殿指巖道徹大居士	小浜	空印寺(小浜)	長安寺(江戸)	
4代	酒井 忠圀	宝永3年(1706)9月8日	宝光院殿巖山道琳大居士	小浜	空印寺(小浜)	長安寺(江戸)	
5代	酒井 忠音	享保20年(1735)5月18日	靈苗院殿墨華道端大居士	江戸	長安寺(江戸)	空印寺(小浜)	空印寺(小浜)
6代	酒井 忠存	元文5年(1740)8月22日	実相院殿諱覺円成大居士	江戸	長安寺(江戸)	空印寺(小浜)	空印寺(小浜)
7代	酒井 忠用	安永4年(1775)9月27日	靈岳院殿大機道乘大居士	小浜	空印寺(小浜)	長安寺(江戸)	
8代	酒井 忠與	宝暦12年(1762)6月18日	樹徳院殿康山成功大居士	江戸	長安寺(江戸)	空印寺(小浜)	空印寺(小浜)
9代	酒井 忠貫	文化3年(1806)1月12日	本覚院殿寂応道寛大居士	小浜	空印寺(小浜)	長安寺(江戸)	
10代	酒井 忠進	文政11年(1828)1月27日	寛隆院殿仁峯良義大居士	江戸	長安寺(江戸)	空印寺(小浜)	空印寺(小浜)
11代	酒井 忠順	嘉永6年(1853)1月17日	天性院殿靈雄道智大居士	江戸	長安寺(江戸)	空印寺(小浜)	空印寺(小浜)
12・14代	酒井 忠義(忠祿)	明治6年(1873)12月5日	温良院殿徳有常隣大居士	東京	長安寺(東京)	空印寺(小浜)位牌寺	空印寺(小浜)
13代	酒井 忠氏	明治9年(1876)1月21日	桓盛院殿賢質英量大居士	高浜	空印寺(小浜)		

表3 若狭小浜藩主酒井家当主室の本葬墓・分霊墓・改葬墓

続柄等	俗名	没年	戒名	死亡地	本葬墓	分霊墓	改葬墓
初代母	三河足助城主鈴木重直娘	元和6年(1620)8月27日	寶鏡院殿秋巖宗仙大禪定尼	川越	源昌寺(川越)		空印寺(小浜)
初代側室	竹子	寛永18年(1641)3月14日	心光院星譽瑣琳周栄大姉	小浜	心光寺(小浜)	大信寺(江戸)	
2代正室	伊予松山藩主松平定頼娘	元禄12年(1699)2月13日	慶雲院殿光栄日通大姉	江戸	瑞輪寺(江戸)		空印寺(小浜)
3代正室	薩摩鹿児島藩世嗣島津綱久娘仙子	天和2年(1683)11月12日	養雲院殿貞信妙長大姉	江戸	瑞輪寺(江戸)		空印寺(小浜)
4代正室	肥前唐津藩主土井利益娘吉子	享保17年(1732)3月9日	栄寿院殿妙詮日量大姉	江戸	本行寺(江戸)		空印寺(小浜)
5代正室	有馬頼光娘盛子	明和2年(1765)6月10日(7月27日)	徳源院殿靈光恵椿大姉	江戸	祥雲寺(江戸)		空印寺(小浜)
5代側室	武藤梅子	寛延3年(1750)1月20日	春岳院殿寶譽柳顔貞樹大姉	小浜	心光寺(小浜)		
7代正室	越後高田藩主松平定儀娘八十子	宝暦4年(1754)7月6日(8月23日)	智円院殿澄窓窓月明鏡大姉	江戸	長専院(江戸) 靈巖寺(江戸)		空印寺(小浜)
7代側室	不明	寛延2年(1749)8月13日	秋爽院紅涼楓大姉	小浜	心光寺(小浜)		
7代側室	不明	寛政9年(1797)7月13日	耀信院西譽晃岸妙照大姉	小浜	心光寺(小浜)		
9代正室	陸奥仙台藩主伊達宗村娘愷子	明和8年(1771)7月5日(8月15日)	天華院殿雲台浄香大姉	江戸	東禅寺(江戸)		空印寺(小浜)
9代後室	久我前右大臣通兄娘治子	天明4年(1784)2月17日(4月6日)	慈雲院殿法室秀林大姉	江戸	長安寺(江戸)		空印寺(小浜)
9代後室	大炊御門前右大臣家孝の娘益子	文化5年(1808)3月10日(4月5日)	歛寿院殿寂室智照大姉	江戸	長安寺(江戸)		空印寺(小浜)
10代正室	豊前中津藩主奥平昌廉娘練子(高子)	文政6年(1823)2月14日	芳樹院殿貞幹操松大姉	江戸	長安寺(江戸)		空印寺(小浜)
11代正室	伊予松山藩主松平定国娘辰子	嘉永3年(1850)10月27日(11月30日)	天明院本源浄性大姉	江戸	長安寺(江戸)		空印寺(小浜)
12代側室	三輪(高塚美和子)	弘化元年(1844)6月16日	智照院明譽恵光大姉	小浜	心光寺(小浜)		
13代正室	酒井忠義の娘稜子	安政5年(1858)6月24日(8月3日)	貞松院殿縁顔清心大姉	江戸	長安寺(江戸)		空印寺(小浜)
14代正室	酒井佳子	明治25年(1892)12月17日		東京	護国寺(東京)		
14代側室	萬亀(三上萬亀子)	明治2年(1869)7月12日	超顔院蓮譽妙華大姉	小浜	心光寺(小浜)		

(1691)に川越から守山に移転となったことによるもので、当初からのものではない。一方日光輪王寺の分霊墓は、忠利が同所を廟所とした3代将軍家光の傳役を務めていたことと関係する可能性が高く、忠利の死後、四半世紀を経たのち、大猷院靈廟が造営された承応2年(1653)頃に忠勝によって設けられたと考えられる。酒井家の場合、本葬墓とほぼ同時期に分霊墓を営むようになったのは、忠勝からということになる。

裏方の本葬墓も死亡地の寺院に営まれたが、忠勝の母寶積院と忠勝の側室竹子(心光院)を除いて分霊墓は設けられない(表3)。忠勝の母は忠勝の父忠利と同じく川越で死亡し、川越の源昌寺に葬られたが、酒井家の小浜転封に伴い、小浜の空印寺に分霊もしくは改葬されたとみられる。一方、忠勝の側室竹子は寛永18年(1641)に小浜で死亡し、竹子のために法名を冠した心光寺が営まれたが、江戸でも酒井家下屋敷の近くにある増上寺末寺の浄土宗金剛山如来院大信寺に分霊墓が設けられた。また、高野山奥の院では忠勝と竹子(心光院)の五輪塔が並んで建てられている。嫡男忠朝や2代藩主忠直の生母でもあった忠勝の正室(松平親能の娘)の墓は、長安寺・空印寺・高野山のどこにも確認できない。それに比べ側室でありながらも、裏方としては例外的に分霊墓が設けられた竹子(心光院)に対する厚遇ぶりが際立つ。

裏方の墓が藩主と同じ長安寺に営まれるようになるのは、史料上は天明4年(1784)に死亡した

9代藩主忠興の後室治子（慈雲院）からであり、墓標として確認できるのは文化5年（1808）に死亡した9代藩主忠貫の後室歆寿院（久我益子）以降である。明和8年（1771）に亡くなった9代藩主の正室愷子（天華院）以前の裏方の墓は江戸の様々な寺院に分散している。愷子の本葬墓がある江戸高輪の東禅寺は、愷子の実家である陸奥仙台藩主伊達家の菩提寺の一つであり、その関係で墓が営まれたと考えられる。また、3代藩主忠隆の正室仙子（養雲院）の墓がある谷中の瑞輪寺には、仙子の実家である薩摩島津家の関係者の墓も存在する⁴⁾。藩主墓のあった長安寺が裏方の墓所と定まる前には、裏方の墓所は実家の縁ある寺に営まれたと考えられよう。

2. 江戸下屋敷内長安寺の墓所

(1) 墓標の配置と墓域の形成過程

江戸牛込の小浜藩主酒井家下屋敷の南端にあった曹洞宗延命山香華院長安寺は、廃藩置県直後の明治4年（1871）10月、下屋敷の廃止に伴い廃寺となったが、酒井家の墓所は残された。大正12年（1923）9月1日に発生した関東大震災は、帝都東京に未曾有の被害を与えたが、長安寺跡酒井家墓所があった牛込区は、全潰率2.0%、焼失率0%、圧死数203人、焼死数0人と、家屋の倒壊はあったものの、大規模な火災はまぬかれた⁵⁾。しかし翌年には周辺一帯は関東大震災を契機とする土地区画整理の対象となり、旧酒井家下屋敷跡を分断するように牛込中央通りが作られ、改葬後に墓所は宅地化された。

「抜萃長安寺記」（小浜市立図書館酒井家文庫資料番号11-41）には、寶永4年（1707）・享保18年（1733）・寛延3年（1750）・宝暦10年（1760）の長安寺酒井家墓所の図が掲載されている。また、大正13年（1924）の改葬の際に作られた「長安寺御墓所略記」（小浜市立図書館酒井家文庫資料番号11-37）にも酒井家墓所の図面が示されている。これらの図面から、歴代の墓標は造立後、大正13年の改葬まで基本的には原位置をとどめていたことが分かる。

長安寺の本堂から続く参道の突き当たり正面に初代藩主忠勝の墓があり、その左右に2代忠直から9代忠貫までの歴代藩主が一行に並ぶ（図1・表4）。10代忠進以降の藩主墓は、墓道を挟んで初代から9代藩主までの墓と向き合いように並んでいる。また、初代忠勝の墓に向かつてのびる参道の右手には裏方や子息女の墓域が存在していた。子息女では享保5年（1720）に死亡した5代藩主忠音の長男金十郎忠通の墓が最も古く、最も藩主墓に近い位置にある。裏方では文化5年（1808）に死亡した9代藩主忠貫の後室歆寿院（久我益子）の墓が最も古く、最も藩主墓に近い。

これらのことから、長安寺の酒井家墓所の形成には次のような画期があったと考えられる。

I期：藩主専用墓所 初代藩主忠勝が死去した寛文2年（1662）～

II期：藩主と子息女の墓所 5代藩主忠音の嫡男忠通が死去した享保2年（1720）～

III期：藩主・裏方・子息女の墓所 9代藩主忠貫の後室治子（慈雲院）が死亡した天明4年（1784）～
～もしくは同じく久我益子（歆寿院）が死去した文化5年（1808）～

II期の墓所整備は5代藩主忠音、III期の墓所整備には10代藩主忠進の意向が働いたと考えられる。



図1 江戸長安寺酒井家墓所図 (大正13年(1924)改葬時)
 「長安寺御墓所略記」(小浜市立図書館酒井家文書11-37)と「抜萃長安寺記」(同11-41)をもとに作図(縮尺不明)

※ 墓の番号は表4・5と対応 数字は造立順

表4 江戸長安寺酒井家墓所の墓標一覧

番号	被供養者	戒名	続柄等	没年月日	備考
①	酒井忠勝	空印寺殿傑傳長英大居士	初代藩主	寛文2年(1662)7月12日	
②	酒井忠直	勇嚴院殿獨立空山大居士	2代藩主	天和2年(1682)7月10日	
③	酒井忠隆	高壹院殿指敵道徹大居士	3代藩主	貞享3年(1686)閏3月21日	
④	酒井忠圀	宝光院殿崑山道琳大居士	4代藩主	宝永3年(1706)9月8日	
⑤	酒井忠音	靈苗院殿墨華道瑞大居士	5代藩主	享保20年(1735)5月18日	
⑥	酒井忠存	實相院殿諦覺圓成大居士	6代藩主	元文5年(1740)8月22日	
⑦	酒井忠用	靈岳院殿大機道乘大居士	7代藩主	安永4年(1775)9月27日	
⑧	酒井忠與	樹徳院殿康山成功大居士	8代藩主	宝暦12年(1762)6月18日	
⑨	酒井忠貫	本覺院殿寂應道寛大居士	9代藩主	文化3年(1806)1月12日	
⑩	酒井忠進	寛隆院殿仁峯良義大居士	10代藩主	文政11年(1828)1月27日	
⑪	酒井忠順	天性院殿靈雄道智大居士	11代藩主	嘉永6年(1853)1月17日	
⑫⑭	酒井忠義(忠禄)	温良院殿徳有常隣大居士	12・14代藩主	明治6年(1873)12月5日	
1	酒井金十郎忠通	慈心院殿徳応義天禅童子	5代藩主忠音の長男	享保5年(1720)1月9日	正室の子
2	酒井久米次郎忠龍	九霄院殿華山雄峯禅童子	5代藩主忠音の二男	享保9年(1724)4月8日	
3	酒井駒之助	一蹈幻暁禅童子	5代藩主忠音の九男	享保20年(1735)10月3日	
4	酒井直五郎	智光院殿玄海秀漚禅童子	5代藩主忠音の六男	元文2年(1737)1月24日	
5	酒井秀之助	却外恵量禅童子	5代藩主忠音の八男	元文2年(1737)10月2日	
6	幸子	靈照院殿孝巖良貞童女	7代藩主忠用の娘	寛延元年(1748)5月17日	
7	酒井忠之進	克明院殿繁山石瑛禅童子	7代藩主忠用の子	宝暦7年(1757)3月20日	
8	不明(男)	万山條鐵童子	9代藩主忠貫の子	安永8年(1779)11月26日	流産
9	酒井千熊忠望	靈樹院殿智岳勇全大居士	9代藩主忠貫の長男	天明4年(1784)7月20日	正室の子
10	酒井主水忠旨	諦了院殿世著英宗大居士	5代藩主忠音十男	寛政元年(1789)9月12日	
11	鎰子	普明院殿海岳智音禅童女	10代藩主忠進の娘	寛政10年(1798)4月12日	
12	不明(女)	織月妙照禅童女	10代藩主忠進の娘	文化3年(1806)6月8日	死産
13	酒井長三郎	祥雲院殿本光良瑞禅童子	10代藩主忠進の三男	文化5年(1808)5月13日	
14	久我益子	慈雲院殿法室秀林大姉	9代藩主忠貫の正室(継室)	文化5年(1808)5月13日	
15	酒井悦之丞	懿孝院殿仙岳柳梢禅童子	10代藩主忠進の七男	文政2年(1819)3月6日	
16	船越岩之輔影風	貞観院殿遊翁恭山大居士	9代藩主忠貫の弟	文政2年(1819)12月9日	
17	練子(高子)	芳寿院殿貞幹操松大姉	10代藩主忠進正室	文政6年(1823)2月19日	
18	寿子	瑞性院殿□林寿光禅童女	10代藩主忠進の娘	文政12年(1829)7月29日	
19	席子	臨泉院殿荷顔智芳禅童女	不明	天保5年(1834)5月4日	
20	不明(女)	清体幻露禅童女	不明	天保5年(1834)6月18日	
21	酒井益之丞	端雲幻祥禅童子	不明	天保7年(1836)8月11日	
22	祐子	珠光院殿麗室貞聚禅童女	12代藩主忠義の娘	天保8年(1837)4月3日	
23	明子	妙徳院殿花顔禅童女	不明	弘化2年(1845)6月6日	
24	不明(女)	慈聖院天鑑貞照大姉	9代藩主忠貫の側室	嘉永2年(1849)2月2日	
25	辰子	天明院殿本源浄性大姉	11代藩主忠順の正室	嘉永3年(1850)10月27日	
26	不明(女)	月心照山童女	13代藩主忠氏の娘	安政5年(1858)6月24日	死産
27	稜子	貞松院殿緑顔清心大姉	13代藩主忠氏の正室	安政5年(1858)6月28日	忠義の娘
28	昌子	蓮芳院殿露含舜英禅童女	13代藩主忠氏の娘	文久2年(1862)4月30日	
29	信子	清容院殿楓林幻紅禅童女	13代藩主忠氏の娘	文久2年(1862)10月4日	
30	恭丸	玉章院殿賢外智光禅童子	10代藩主忠進の妾腹の子	元治2年(1865)12月6日	
31	不明(男)	夢相幻心童子	不明	慶應2年(1866)2月29日	
32	酒井忠敏	龍光院殿心原宗徹大居士	10代藩主忠進の長男	明治5年(1872)10月26日	
33	柳子	梅岳院殿奏仙幻栄禅童女	14代藩主忠禄の娘	明治6年(1873)12月5日	

番号は図1に対応する。 ○で囲んだ番号は藩主の代を示す。

(2) 長安寺酒井家墓所における献灯籠

長安寺酒井家墓所にある33基の墓のうち26基に石灯籠が奉献されていた(表5)。藩主墓には全て石灯籠が奉献されているのに対して、正室・側室の墓では6割、藩主の子息女の墓は約半数の墓にしか石灯籠がみられない。石灯籠の数は、藩主墓では初代藩主忠勝墓が32基と突出して多く、2代以降は8～5基、正室・側室墓は全て2基、子息女墓では5代藩主忠音の長男忠通の墓の6基が最大で、9代藩主忠貫の長男の忠望の墓の5基がこれに次ぐ。

石灯籠を伴う26墓のうち、22基の墓前には奉献者の名前を刻まない2基一対の石灯籠がみられる。石灯籠1基あたりの奉献者数は、近代以降に奉納されたと考えられるものを除けば、最大は13名だが、7名以下のものがほとんどである。

石灯籠の奉献者は、藩主墓では、裏方・子息女・親戚などの一族と家臣、子息女墓では家臣の他に、お付きの者とみられる女性の名前もみられる。このうち家臣では、石高3200石の家老酒井伊織家、石高3000～500石で二ノ間席の城代クラス、石高800～400石で三ノ間席の老役クラス、石高650～100石で平士の奉行・用人クラスが、石灯籠を藩主酒井家の墓に奉献している。

次に最も多い32基もの石灯籠が奉献された初代藩主酒井忠勝の墓を取り上げ、石灯籠の位置と奉献者との関係性を検討する(図1・表5-1)。忠勝の墓(①)には、他の多くの墓と同じように墓前正面の入口の左右に奉納者名を記さない石灯籠が一対ある(①)。奉納者名を記さない石灯籠は、長安寺本堂から酒井家墓所へと直線的に伸びる参道沿いの、門と手水鉢との間にも置かれている(⑬)。

①の手前、墓道の左右に置かれた②は、2代藩主忠直の正室で、3代藩主忠隆の生母でもある振子によって奉献されている。②の手前にある③～⑤の奉納者は俗名ではなく法名で記されており、特定はできなかったが、いずれも忠勝の近親者と考えられる女性である。

さらにその手前、墓道が十字に交差する付近に置かれた⑥～⑪の石灯籠は、忠勝の弟で旗本寄合7000石の酒井紀伊守忠吉と、忠勝の娘長松院が嫁いだ丹波篠山藩藩主松平若狭守康信(⑥)、忠勝の娘あぐりの子で、忠勝の死亡時には上野安中藩主で幕府奏者番でもあった堀田備中守正俊と、同じくあぐりの子で信濃飯田藩主の脇坂中務少輔安吉(安政)(⑦)、同じくあぐりの子で後に常陸北条藩主となる堀田対馬守正英と、忠勝の娘の子で播磨林田藩主の建部織部政明(⑧)、忠勝の娘の長松院の子で摂津麻田藩主の青木民部重正(忠勝の三男で摂津麻田藩主青木可一の甥)(⑩)など、忠勝の女婿をはじめとする外戚により奉献されている。

一方、墓標を囲む玉垣の両脇にある⑫と⑬は、三ノ間席の老役・組頭や平士の先手物頭など家臣が奉献したものである。さらにそれらの奥にある⑭と⑮は、刻まれた名前からみて明治期に旧小浜藩士によって奉献されたと考えられる。

以上のように酒井忠勝の墓に奉献された石灯籠は、最も重要な位置に置かれた個人名を記さないもの(①・⑬)と個人名を記したものに大別され、後者は、忠勝との関係性が近い順に、近親者と思われる女性たち(②～⑤)、弟・他家へ養子に行った子・他へ嫁いだ娘の子等の外戚(⑥～⑪)、家臣(⑫～⑮)に分けられ、置かれる場所と並びが厳格に決められていたことが判明した。

表5-1 長安寺酒井家墓所の石灯籠とその奉納者(1)

墓	被供養者	番号	数	紀年銘	奉納者	石高	役職	家格		
①	酒井忠勝	初代藩主	32	①	2 1662.0712	無記名				
				②	2 1662.0712	酒井修理大夫室源振子	2代藩主忠直正室・3代藩主忠隆生母			
				③	2 1662.0712	性恭妙慧				
				④	2 1662.0712	法雲守性大姉				
				⑤	2 1662.0712	正統院				
				⑥	1 1662.0712	酒井紀伊守忠吉	忠勝の弟(旗本寄合)			
				⑦	1 1662.0712	松平若狭守康信	忠勝の娘婿(丹波篠山藩主)			
				⑧	1 1662.0712	堀田備中守正俊	忠勝の娘の子(上野安中藩主)			
				⑨	1 1662.0712	脇坂中務少輔安吉	忠勝の娘の子(信濃飯田藩主)			
				⑩	1 1662.0712	堀田対馬守正英	忠勝の娘の子(常陸北条藩主)			
				⑪	1 1662.0712	建部織部政明	忠勝の娘の子(播磨林田藩主)			
				⑫	1 1662.0712	高木甚左衛門正則	忠勝の娘の子			
				⑬	1 1662.0712	酒井内記忠興				
				⑭	1 1662.0712	酒井頼母忠真				
				⑮	1 1662	青木民部重正	忠勝の子の青木可一甥(摂津麻田藩主)			
				②	酒井忠直	2代藩主	17	①	2 1682.0710	無記名
②	2 1682.0710	慶雲院	2代藩主忠直正室・3代藩主忠隆生母							
③	2 1682.0710	從五位下右京亮酒井氏忠登								
④	2 1682.0710	酒井勝之助忠純								
⑤	1 1682.0710	酒井右京亮室豊子								
⑥	1 1682.0710	酒井内記忠篤								
⑦	1 1682.0710	酒井内記室源福子								
⑧	1 1682.0710	酒井数馬源忠陳								
⑨	1 1682.0710	田中又右衛門尉猶久	210石					奉行	平士	
⑩	1 1682.0710	林野作兵衛尉直貞	3000石					城代	二ノ間席	
③	酒井忠隆	3代藩士	13	①	2 1686.0321	無記名				
				②	1 1686.0321	從五位下右京亮酒井氏源忠登				
				③	1 1686.0321	遠江守娘佐安				
				④	1 1686.0321	不明				
				⑤	1 1686.0321	酒井内記忠篤				
				⑥	1 1686.0321	高木半右工門室梅				
				⑦	1 1686.0321	毛利式部室那邊				
				⑧	1 1686.0321	田中又左衛門尉猶久				
				⑨	1 1686.0321	土岐五左衛門尉頼豊				
				⑩	1 1686.0321	小泉安兵衛尉正音				
④	酒井忠圀	4代藩主	10	①	2 1706.0908	無記名				
				②	1 1706.0908	長壽院				
				③	1 1706.0908	元享院				
				④	2 1706.0908	栄壽院	4代藩主忠圀正室			
				⑤	1 1706.0908	小泉安左衛門尉正久				
				⑥	1 1706.0908	宮地瀨兵衛尉可映	400石	老役	三ノ間席	
				⑦	1 1706.0908	廣澤角左衛門尉重賢	650石	奉行	平士	
				⑧	1 1706.0908	鳥居勘右衛門尉守光 糟谷次左衛門尉宗興				

表5-2 長安寺酒井家墓所の石灯籠とその奉納者(2)

墓	被供養者	番号	数	紀年銘	奉納者	石高	役職	家格	
⑤	酒井忠音	5代藩主	7	①	2 1735.0518	無記名			
				②	2 1735.0518	徳源院	5代藩主忠音正室		
				③	1 1735.0518	武久莊兵衛昌純	900石	城代	二ノ間席
				④	1 1735.0518	市石新兵衛昭澄	800石	老役	三ノ間席
				⑤	1 1735.0518	栗栖清左衛門貞知	400石	老役	三ノ間席
						望月平右衛門正武			
						山本又七勝由			
						大森十右衛門元府	500石?	不明	不明
						中嶋作兵衛但秀			
						嶋田莊左衛門貞全			
梅田平八貞亨									
⑥	酒井忠存	6代藩主	7	①	2 1740.0822	無記名			
				②	1 1740.0822	市石新兵衛昭澄	800石	老役	三ノ間席
				③	1 1740.0822	大森十右衛門元府	500石?	不明	不明
				④	1 1740.0822	鈴木半左衛門政興	500石	老役	三ノ間席
				⑤	1 1740.0822	栗栖清左衛門貞知	400石	老役	三ノ間席
						中嶋作兵衛但秀			
						嶋田莊左衛門貞全			
⑥	1 1740.0822	梅田平八貞亨							
⑦	酒井忠用	7代藩主	7	①	2 1775.0927	無記名			
				②	2 1775.0927	酒井修理大夫忠貫室源益子	9代藩主忠貫再継室		
				③	1 1775.0927	市石新兵衛昭徳	800石	老役	三ノ間席
				④	1 1775.0927	山口次兵衛重遠	400石	老役	三ノ間席
				⑤	1 1775.0927	大嶋仁右衛門久奉			
						糟谷次左衛門宗完			
並河久左衛門宗業	370石	本丸御番							
⑧	酒井忠與	8代藩主	5	①	2 1762.0618	無記名			
				②	1 1762.0618	市石新兵衛映徳	800石	老役	三ノ間席
				③	1 1762.0618	磯谷政右衛門保定			
				④	1 1762.0618	加藤深右衛門正修			
						伴彦右衛門資以	350石	奉行	平士
大嶋仁右衛門久奉									
⑨	酒井忠貴	9代藩主	8	①	2 1806.0112	無記名			
				②	2 1806.0112	観壽院	9代藩主忠貴再継室		
				③	1 1806.0112	松木甚右衛門貞全			
				④	1 1806.0112	鈴木三太夫重俊			
				⑤	1 1806.0112	針谷十郎左衛門直諒			
				⑥	1 1806.0112	江坂八郎兵衛正□			
						下沼田又一直信	200石	奉行	平士
						萩山兵助貞高			
久野金太夫直温		組者頭仮役	平士						
根岸吉左衛門定實	100石	奉行	平士						
⑩	酒井忠進	10代藩主	5	①	2 1828.0127	無記名			
				②	1 1828.0127	針谷十郎左衛門直諒			
				③	1 1828.0127	武久莊兵衛昌生	900石	城代	二ノ間席
				④	1 1828.0127	宮田源左衛門景盛			
						江口平次左衛門成實			
						針谷一太夫直温			
山口貞一郎重□									
梶川武兵衛武静									
⑪	酒井忠順	11代藩主	6	1853.0121	不明			6基	
⑫ ⑬ ⑭	酒井忠義 (忠禄)	12・14代藩主	8	1876.0121	不明			8基	

表5-3 長安寺酒井家墓所の石灯籠とその奉納者(3)

墓	被供養者	番号	数	紀年銘	奉納者	石高	役職	家格				
1	酒井金十郎忠通	5代藩主忠音の長男	①	2	1720.0109	無記名						
						足立七左エ門正興	500石	城代	二ノ間席			
			②	1	1720.01	武久莊兵衛昌純	900石	城代	二ノ間席			
						糟谷勘右衛門宗興	300石	奉行	平士			
						青山主膳茂視						
			③	1	1720.0109	深栖主悦喜勝	1150石	城代	二ノ間席			
						酒井伊織忠祖	3200石	家老	酒井伊織家			
						都築丹下秀堅	1500石	大頭	二ノ間席			
			④	6	1	1720.0109	河合次右衛門政方					
							嶺尾甚右衛門信秀					
							嶺尾三右衛門信之					
							岡團兵衛正信					
			⑤	1	1720.0109	大塚四郎左衛門長元	200石	奉行	平士			
						赤見十郎右衛門元珎	225石	目付				
						本橋十兵衛俊房						
御乳娘望月氏て□												
鈴木權太夫文雅												
2	酒井久米次郎忠龍	5代藩主忠音の二男	①	2	1724.0408	酒井伊織忠祖	3200石	家老	酒井伊織家			
						都築丹下秀堅	1500石	大頭	二ノ間席			
						深栖主悦□邑	1150石	城代	二ノ間席			
						青山主膳茂視						
						糟谷勘右衛門宗興						
						武久莊兵衛昌純	900石	城代	二ノ間席			
						足立七左エ門正興	500石	城代	二ノ間席			
						岡團兵衛正信						
						磯谷政右衛門重光						
						谷口九郎左衛門直重						
						②	1	1724.0408	大塚四郎左衛門長之	225石	目付	
									赤見十郎左衛門元珎	225石	目付	
									梶原太郎左衛門重資	350石	奉行	平士
									栗栖清左衛門貞知	400石	老役	三ノ間席
									針谷十郎左衛門長直			
③	1	1724.0408	望月平右衛門正武									
			市石清太夫定□									
			山田甚内盛明									
			深栖喜勝									
			津田平馬正信									
山本又七勝由												
三浦□左衛門正□												
小澤太左衛門宜秀												
3	酒井駒之助	5代藩主忠音の九男	なし									
4	酒井直五郎	5代藩主忠音の六男	①	2	紀年銘なし	無記名						
5	酒井秀之助	5代藩主忠音の八男	なし									
6	幸子	7代藩主忠用の娘	①	4	1748.0517	不明						
						志□桑						
						こせ						
						□し						
②	1	1748.0517	かち									
			らん									
③	1	1748.0517	とそ									
			貞樹院									
7	酒井忠之進	7代藩主忠用の子	なし									
8	不明(男)	9代藩主忠貫の子	なし									
9	酒井千熊忠望	9代藩主忠貫の長男	①	5	1874.0720	無記名						
						②	1	1874.0720	酒井伊織忠□	3200石	家老	酒井伊織家
									深栖典膳絹光	1150石	城代・大頭格	二ノ間席
						③	1	1874.0720	安部三左衛門季典	800石	老役	三ノ間席
									三浦主馬助義生	1300石		
									市石新兵衛映昭	800石	老役	三ノ間席
									松田一郎左衛門秀世	400石	老役	三ノ間席
						④	1	1874.0720	高木清太夫資源達			
									大嶋仁右衛門久奉			
									並河久左衛門宗崇	370石	本丸御番	
									岡見太郎直弘	400石	老役	三ノ間席
									塩野八郎右衛門伯篤			
三浦孫助義延	300石	用人	平士									
⑤	1	1874.0720	針谷権左衛門長徳									
			市石喜膳昭信									
			片岡次郎左衛門良至	170石	奉行	平士						
			間宮裕光直	250石	用人	平士						
10	酒井主水忠旨	5代藩主忠音十男	①	2	1789.0912	無記名						

表5-4 長安寺酒井家墓所の石灯籠とその奉納者(4)

墓	被供養者	番号	数	紀年銘	奉納者	石高	役職	家格
11 銚子	10代藩主忠進の娘	①	2	1 1798.0412	伴平右衛門信當 小畑次郎右衛門□□	350石	奉行	平士
				1 1798.0412	梁浦 歌橋 千代浦 御附女中			
12 不明(女)	10代藩主忠進の娘		なし					
13 酒井長三郎	10代藩主忠進の三男	①	2	1 1808.0513	栗田瀧五郎正明 中山傳兵衛□□	50石	組頭	
				1 1808.0513	歌橋 御部屋女中			
14 久我益子	9代藩主忠實の継室	①	2	1784.0217	無記名			
15 酒井悦之丞	10代藩主忠進の七男	①	2	1810.0306	無記名			
16 船越岩之輔影風	9代藩主忠實の弟		なし					
17 練子(高子)	10代藩主忠進正室	①	2	1823.0219	無記名			
18 寿子	10代藩主忠進の娘	①	2	1829.0729	無記名			
19 席子	不明		なし					
20 不明(女)	不明		なし					
21 酒井益之丞	不明		なし					
22 祐子	12代藩主忠義の娘	①	2	1837.0403	無記名			
23 明子	不明		なし					
24 不明(女)	9代藩主忠實の側室	①	2	1849.0202	無記名			
25 辰子	11代藩主忠順の正室		なし					
26 不明(女)	13代藩主忠氏の娘		なし					
27 稜子	13代藩主忠氏の正室		なし					
28 昌子	13代藩主忠氏の娘		なし					
29 信子	13代藩主忠氏の娘		なし					
30 恭丸	10代藩主忠進の妾腹の子		なし					
31 不明(男)	不明		なし					
32 酒井忠敏	10代藩主忠進の長男		なし					
33 柳子	14代藩主忠禄の娘		なし					

(3) 長安寺酒井家墓所における本葬と分霊

「長安寺御墓所略記」には大正13年の改葬の際に墓標の下から発見された施設が朱書きされており、これと「抜萃長安寺記」を重ね合わせることで、藩主墓の本葬・分霊と正室・側室の本葬の様子をある程度うかがい知ることができる(表6・7)。

歴代の藩主の墓標は、厚さ一尺を越す特殊で巨大な花崗岩製の板碑形(以下板碑形と表記)⁶⁾で、周りには玉垣が巡り、正面には石扉が設けられている(図2)。本葬墓にだけ納経(石)碑⁷⁾がみられる点を除けば、地上の施設に関して本葬墓と分霊墓で顕著な違いはなく、外観から判別することは不可能である。

本葬墓の葬法・埋葬施設は、初代藩主忠勝のみが火葬され大型蔵骨壺に納められており、5代藩主忠音以降の藩主や裏方は、確認される限り全て土葬で、石室漆喰檜内の木棺に埋葬されている(表6)。このうち文政11年(1828)に死亡した10代藩主忠進、嘉永3年(1850)に死亡した11代藩主の正室辰子(天明院)、明治6年(1873)に死亡した12・14代藩主忠義(忠禄)の木棺には瀝青に砥の粉と油を混ぜた「チャン」が塗られていた。長安寺酒井家墓所ではチャンの使用は18世紀代の墓には見られない。副葬品として記載があるのは、初代藩主忠勝墓から出土した「茶碗ノ小サキー」・「金物ラシキ物二、三」・「巻物ラシキ物」だけである。

分霊墓の地下施設が分かる墓が5例ある(表7)。2代藩主忠直と3代藩主忠義の墓からは経石が発見されている。7代藩主忠用と9代藩主忠貫の墓からは木箱を納めた石櫃が出土しており、そのうち忠用の墓から見つかった木箱内には衣服が納められていた。

3. 小浜空印寺の墓所

(1) 墓標の配置と墓域の形成過程

国元の菩提寺である小浜の空印寺の酒井家墓所は本堂の裏手にあり、本堂から続く参道の両側には手水鉢と石灯籠が並ぶ。墓所入口の門をくぐると、後瀬山を背にして逆「コ」字型の墓域があり、後瀬山側は現在JR小浜線の線路に接している(図3)。明治40年(1907)に作成された「空印寺・心光寺御廟所御名石碑御位牌寸法明細帳」(小浜市立図書館酒井家文庫資料番号11-18)に示された図面(図4)と現状を比較することで、大正13年(1924)に長安寺から移設された墓標を特定した結果、移設された墓標は門を歩いて右手の一角にまとめられており、本来の墓所は逆「L」字形であったこと、明治40年以降、墓標はほとんど移動していないことが分かった。大正13年の改葬以前から存在していた墓標は、初代藩主忠勝の二男忠経の笠塔婆と2代藩主忠直六男酒井佐内の不定形墓標の除き、全て板碑形である(表8)。

空印寺酒井家墓所にある最も古い年号を有する墓標は、寛永4年(1627)に亡くなった忠利の分霊墓である板碑形墓標だが、石材が小浜には1660年代以降に本格流入したと考えられる花崗岩であるため、寛文2年(1662)に死亡した初代藩主忠勝の分霊墓である花崗岩製板碑形墓標が建てられたのを機に、隣り合う忠利の正室寶鏡院の花崗岩製板碑形墓標とともに設けられた可能性が高い。

表6 江戸長安寺の若狭小浜藩主酒井家墓所における本葬墓

続柄等	被供養者	没年月日	墓標	石灯籠等	埋葬施設等	大正13年4月「長安寺御墓所略記」 (小浜市立図書館酒井家文庫11-37)
初代藩主	酒井忠勝	寛文2年(1662)7月12日	板碑形	32基	火葬 蔵骨器 副葬品：茶碗・金物・巻物	「大壺ノ中ニ木炭ト土トノ混合物充滿シ居リ 唯茶碗ノ小サキ一、二、金物ラシキ物小二、三アリ 上ノ方ニ御遺髪ト巻物ラシキ物ノ朽タル物アリタリ」 墓前に明治44年8月25日に舊誼會が250年忌に建てた花崗岩製石灯籠一対
5代藩主	酒井忠音	享保20年(1735)5月18日	板碑形	7基 花瓶一対	土葬 石室漆喰槨木棺 (石室内木炭充填)	「石棺アリ 木棺腐朽シ居リ 御遺骨ヲ移棺ス 外棺等實相院ニ同ジ」 墓前に寛延4年(1751)に建てられた大乗妙典納経碑
6代藩主	酒井忠存	元文5年(1740)8月22日	板碑形	7基 花瓶一対	土葬 石室漆喰槨木棺 (石室内木炭充填)	「石棺ト外棺トノ間ハ木炭 外棺ト■トノ間ハ石灰 ■■ニハ石灰詰メアリ 木棺腐朽シ居リ 御遺骨ヲ移棺ス」 墓前に大乗妙典納経石碑
8代藩主	酒井忠與	宝暦12年(1762)6月18日	板碑形	5基 花瓶一対	土葬 石室漆喰槨木棺 (石室内木炭充填)	「石棺ト外棺トノ間ハ土ナリ 唯少シ上ニ粘土ト其上ニ木炭アリ 外棺ト■トノ間ハ石灰、■ノ内ニ石灰詰メアリ」
10代藩主	酒井忠進	文政11年(1828)1月27日	板碑形	5基 花瓶一対	土葬 石室漆喰槨木棺 (石室内木炭充填) (木棺にチャン塗布)	「石棺ト棺トノ間木炭 棺ニチャン塗りアリ 御棺大ナリシニ付高サヲ切り縮ム」
11代藩主	酒井忠順	嘉永6年(1853)1月17日	板碑形	6基	土葬 石室漆喰槨木棺 (石室内木炭充填) 寝棺	「御寝棺ナリ 石棺ト外棺トノ間木炭 外棺ト■トノ間石灰 御棺大ナリシニ依リ切り縮ム」 墓前に大乗妙典納経碑
12・14代藩主	酒井忠義 (忠禄)	明治6年(1873)12月5日	板碑形	8基	土葬 石室漆喰槨木棺 (石室内木炭充填) (木棺にチャン塗布) 寝棺	「御寝棺アリ 石棺ト捨棺(杉板)トノ間木炭ト石灰ト混シタル物、捨棺ト外棺(檜板)外棺ノ外部及内部ハチャン塗りアリ■ハ棺ノ一枚板ニテ長サ約六尺幅二尺七寸高サ三尺二寸餘アリ 御詰物等新シキ物ノ如ク寸毫モ変化ナシ ■大ナリシニ付高サ及幅ヲ切り縮ム」
5代藩主 忠音の長男	酒井金十郎忠通	享保5年(1720)1月9日	板碑形	6基	土葬 石室漆喰槨木棺?	「石棺アリ」 墓前に大乗妙典納経石碑
9代藩主 忠貞の子	不明(男児)	安永8年(1779)11月26日	六角柱	0基	不明	蓋石に「此石下開事無用」
9代藩主 忠貞の長男	酒井千熊忠望	天明4年(1784)7月20日	板碑形	4基	土葬 石室漆喰槨木棺?	「石棺アリ」
9代藩主 忠貞の正室	久我益子	天明4年(1784)2月17日	板碑形	2基	土葬 石室漆喰槨木棺?	「石棺アリ」
10代藩主 忠進正室	練子(高子)	文政6年(1823)2月19日	板碑形	2基	土葬 石室漆喰槨木棺?	「石棺アリ」
11代藩主 忠順の正室	辰子	嘉永3年(1850)10月27日	板碑形	6基	土葬 石室漆喰槨木棺 (石室内木炭充填) (木棺にチャン塗布) 寝棺	「御寝棺アリ 石棺ト捨棺(杉板)トノ間木炭ト石灰ト混シタル物、捨棺ト外棺(檜板)外棺ノ外部及内部ハチャン塗りアリ■ハ棺ノ一枚板ニテ長サ約六尺幅二尺七寸高サ三尺二寸餘アリ 御詰物等新シキ物ノ如ク寸毫モ変化ナシ ■大ナリシニ付高サ及幅ヲ切り縮ム」
13代藩主 忠氏の正室	稜子	安政5年(1858)6月28日	板碑形	6基	土葬 石室漆喰槨木棺 (石室内木炭充填) 寝棺	「御寝棺ナリ 石棺ト外棺トノ間木炭 外棺ト■トノ間石灰 御棺大ナリシニ依リ切り縮ム」

表7 江戸長安寺の若狭小浜藩主酒井家墓所における分霊墓

続柄等	被供養者	没年	墓標	石灯籠等	分霊装置	大正13年4月「長安寺御墓所略記」 (小浜市立図書館酒井家文庫11-37)
2代藩主	酒井忠直	天和2年(1682)7月10日	板碑形	17基	経石	「御墓ノ中ヨリ御経ノ文字ヲ記セル経石多数頭ル 其他ナシ」
3代藩主	酒井忠隆	貞享3年(1686)閏3月21日	板碑形	13基 花瓶一対	経石	「御墓ノ中ヨリ御経ノ文字ヲ記セル経石多数頭ル 其他ナシ」
4代藩主	酒井忠圀	宝永3年(1706)9月8日	板碑形	10基		「何物モナシ」
7代藩主	酒井忠用	安永4年(1775)9月27日	板碑形	7基 花瓶一対	石櫃 (木箱に収めた衣服)	「一尺六寸位ノ厚サノ二個ノ石ヲ彫リテ印籠蓋形ニ合セアリ 中ニ小ナル木棺アリ 木棺ノ中ニ御着服容アリタリ 明ニ袴ノ形ハ存セリ」
9代藩主	酒井忠貞	文化3年(1806)1月12日	板碑形	8基 花瓶一対	石櫃(木箱)	「一尺六寸位ノ厚サノ二個ノ石ヲ彫リテ印籠蓋形ニ合セアリ 中ニ小ナル二重ノ木棺アリ」

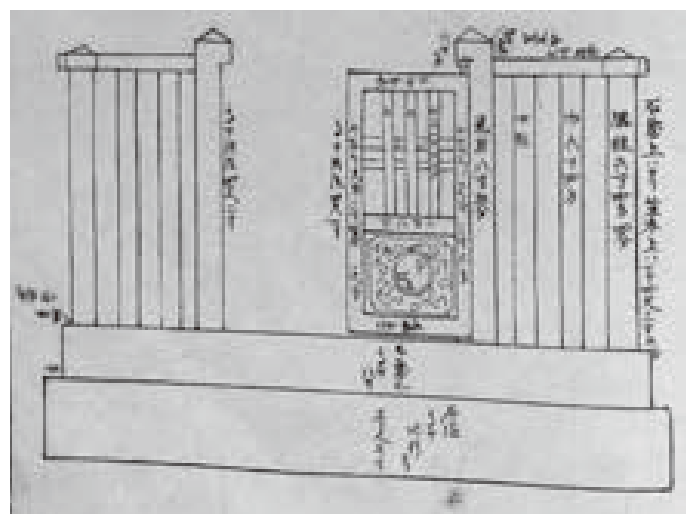
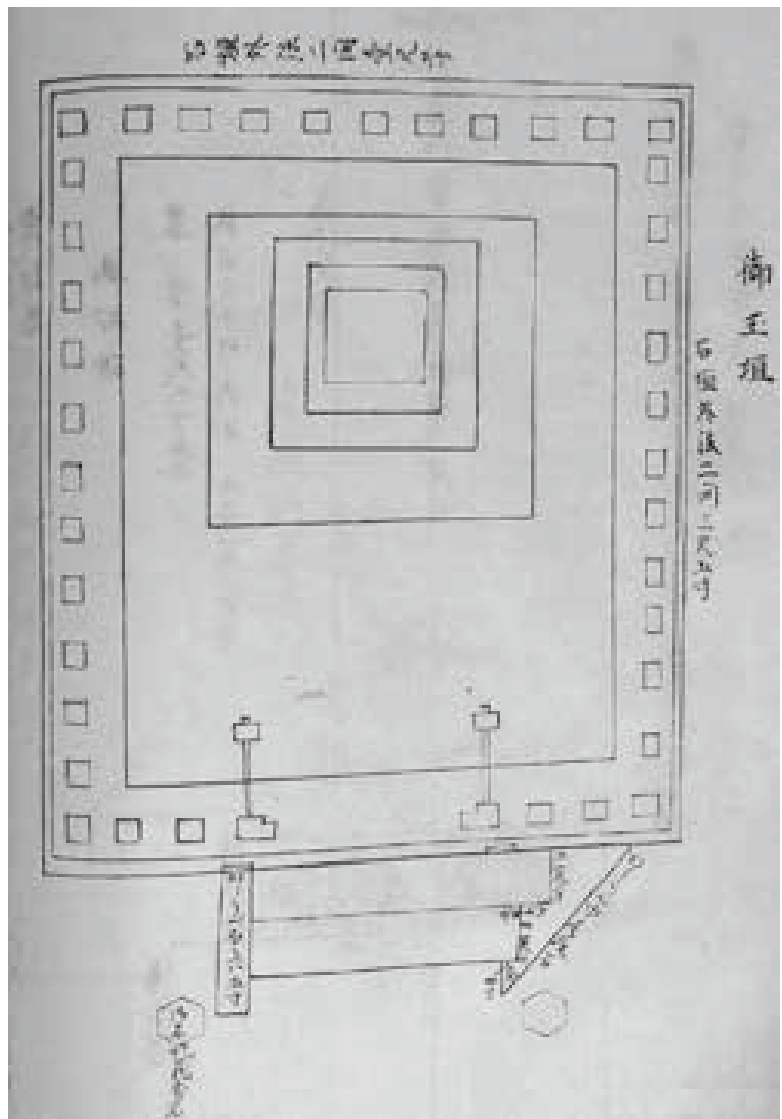


図2 江戸長安寺の酒井忠勝墓

「拔萃長安寺記」(小浜市立図書館酒井家文庫資料番号11-41)より

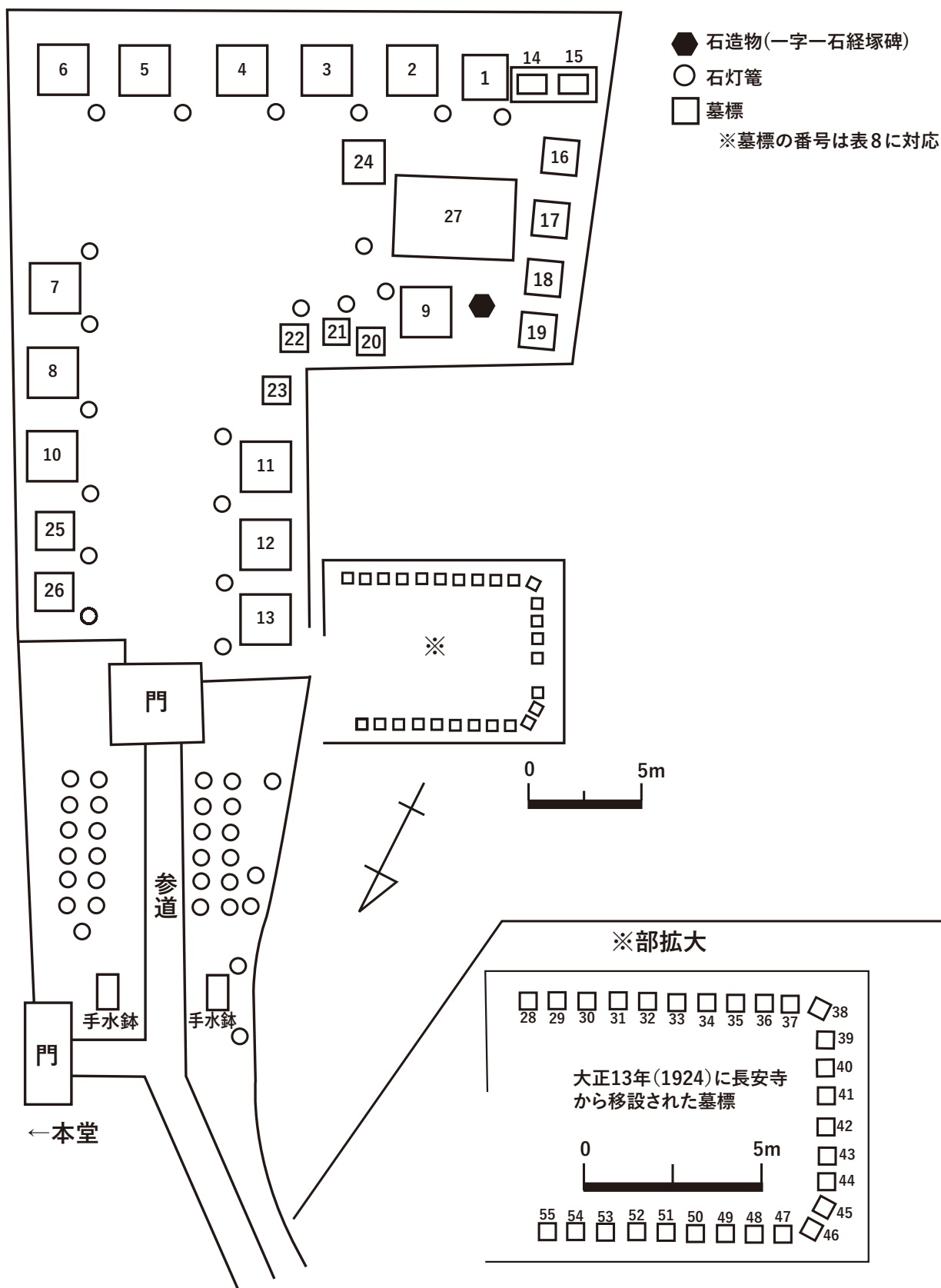
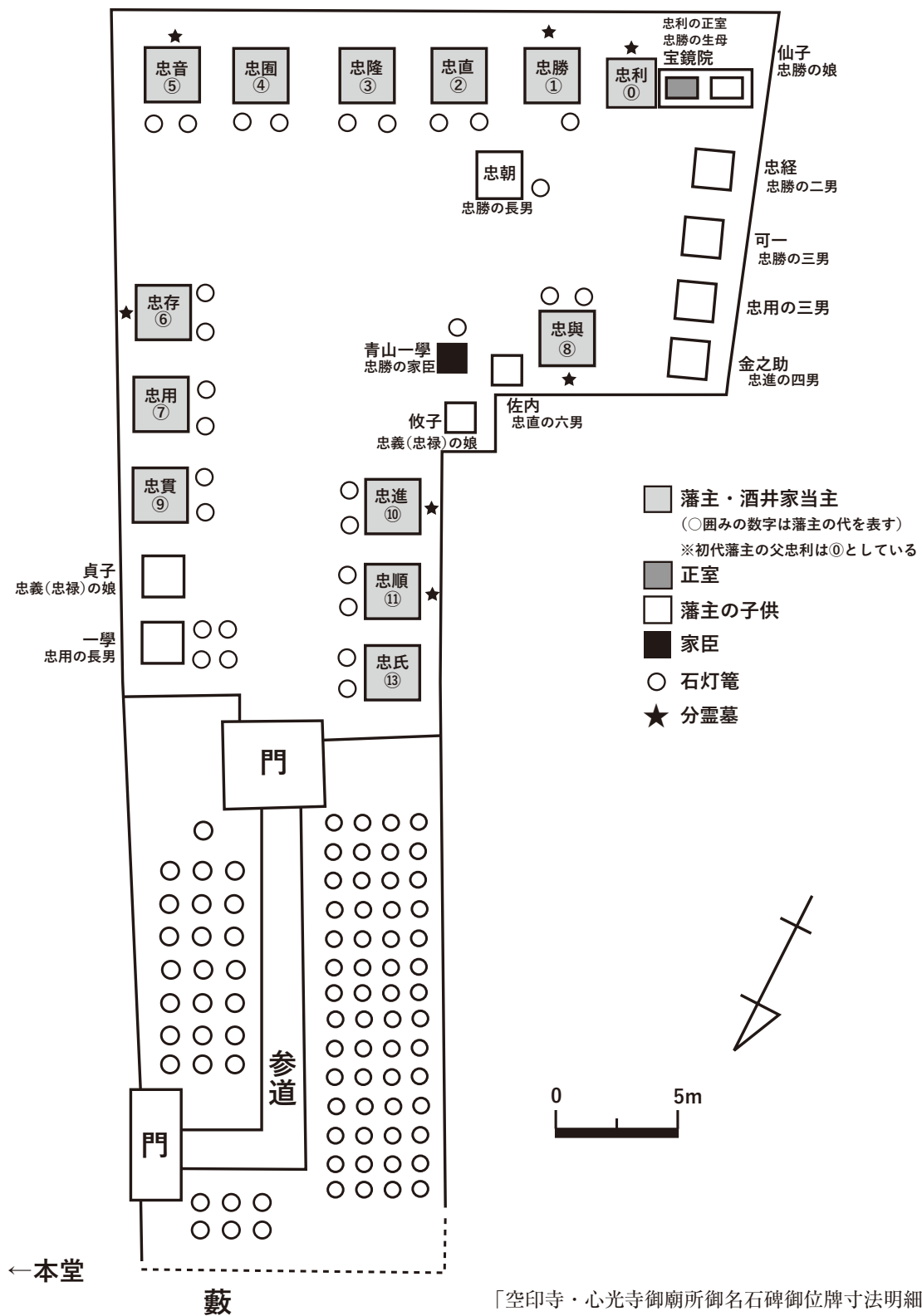


図3 小浜空印寺酒井家墓所図



「空印寺・心光寺御廟所御名石碑御位牌寸法明細帳」
 (小浜市立図書館蔵酒井家文書11-18)から作図

図4 小浜空印寺酒井家墓所図(明治40年)

表8 空印寺酒井家墓所の墓標一覧

墓標番号	被供養者				墓標			献灯籠		
	分類	俗名	戒名	没年月日	型式	石材	高cm	基数	人数	
1	酒井家当主	酒井忠利	廣徳院殿泰雲建康大居士	1627.1114	板碑形	花崗岩	372			
2	初代藩主	酒井忠勝	空印寺殿傑傳長英大居士	1662.0712	板碑形	花崗岩	378	2	2	
3	2代藩主	酒井忠直	勇蔵院殿獨立空山大居士	1682.0710	板碑形	花崗岩	383	7	12	
4	3代藩主	酒井忠隆	高臺院殿指巖道徹大居士	1686.0321	板碑形	花崗岩	387	6	6	
5	4代藩主	酒井忠圃	宝光院殿崑山道琳大居士	1706.0908	板碑形	花崗岩	383	9	11	
6	5代藩主	酒井忠音	靈苗院殿曇華道瑞大居士	1735.0518	板碑形	花崗岩	382	8	11	
7	6代藩主	酒井忠存	實相院殿諦覺圓成大居士	1740.0822	板碑形	花崗岩	382	7	9	
8	7代藩主	酒井忠用	靈岳院殿大機道乘大居士	1775.0927	板碑形	花崗岩	391	9	10	
9	8代藩主	酒井忠興	樹徳院殿康山成功大居士	1762.0618	板碑形	花崗岩	377	8	13	
10	9代藩主	酒井忠貫	本覺院殿寂應道寛大居士	1806.0112	板碑形	花崗岩	377	8	8	
11	10代藩主	酒井忠進	寛隆院殿仁峯良義大居士	1828.0127	板碑形	花崗岩	375	8	8	
12	11代藩主	酒井忠順	天性院殿靈雄道智大居士	1853.0117	板碑形	花崗岩	381	8	11	
13	13代藩主	酒井忠氏	桓盛院殿賢實英量居士	1876.0121	板碑形	花崗岩	380	5	27	
14	忠利正室	宝鏡院	寶鏡院桃巖宗仙大姉	1620.0827	板碑形	花崗岩	357			
15	初代藩主忠勝娘	仙子	清室院殿花桂宗心大姉	1636.0613	板碑形	日引石	132			
16	初代藩主忠勝二男	酒井民部忠経	達観恵通大禅定門	1640.0817	笠塔婆	花崗岩	187			
17	初代藩主忠勝三男	酒井主殿可一	清岩院殿三要一玄居士	1644.0626	板碑形	花崗岩	201			
18	7代藩主忠用三男	不明(男児)	桂巖院殿月爛良清禅童子	1749.0812	板碑形	日引石	202			
19	10代藩主忠進五男	金之助	仙樹院殿瑞芽嫩秀禅童子	1810.1024	板碑形	花崗岩	192			
20	2代藩主忠直六男	酒井佐内	大智院殿魯山尚朴居士	1726.0605	不定形	花崗岩	135	1	不明	
21	初代藩主忠勝家臣	青山一学	玄無雷庵居士	1662.0712	板碑形	花崗岩	132	4	不明	
22	12代藩主忠義娘	攸子	華瑤院殿麗香妙艶禅童女	1852.0214	板碑形	日引石	199			
23	10代藩主忠進四男	不明(男児)	洞環院殿圓乘亮頓禅童子	1811.0408	板碑形	日引石	172			
24	初代藩主忠勝長男	酒井忠朝	用運院殿獨立葉山大居士	1662.0324	板碑形	花崗岩	218			
25	12代藩主忠義娘	貞子	寒月院殿冷豔智明禅童女	1857.1105	板碑形	日引石	204			
26	7代藩主忠用長男	酒井一學	梅梢院殿華岳芳心禅童子	1750.1005	板碑形	日引石	263			
27	酒井家之墓〔大正13年(1924)改葬時に造立〕				明治以降につき未調査					
28	2代藩主忠直娘	不明(女)	桂光院殿栄通祥盛大姉	1703.0806	別石五輪塔	花崗岩	218			
29	忠利娘	種子	雲性院殿長宗栄大姉	1699.1011	別石五輪塔	花崗岩	246			
30	不明	不明(男)	智岳院殿晴雲宗英居士	1793.0917	楡形	花崗岩	212			
31	不明	不明(女)	慈性院殿正眞浄心大姉		明治以降につき未調査					
32	不明	不明(女)	観月院殿禅心定圓大姉	1842.0914	楡形	花崗岩	219			
33	不明	不明(男)	天寿院殿雲巖永松居士		明治以降につき未調査					
34	不明	不明(女)	卓隆院殿貞松堅操大姉	1824.1214	楡形	花崗岩	218			
35	不明	不明(男)	朴翁院殿別峯素傳居士	1849.0518	楡形	花崗岩	209			
36	不明	不明(女)	正受院殿廉室賢負大姉	1816.0814	楡形	花崗岩	218			
37	不明	不明(男)	凌雲院殿英巖智雄居士	1812.0517	楡形	花崗岩	206			
38	7代藩主忠用娘	悦子	微妙院殿知山玄照大姉	1766.1014	楡形	花崗岩	215			
39	酒井伊織家当主	酒井図書助忠實	南嶽院殿嶺雲耕月居士	1766.1008	楡形	花崗岩	211			
40	不明	不明(女)	桂寿院殿閨室智香大姉	1789.0203	楡形	花崗岩	210			
41	不明	不明(男)	龍興院殿道崇信巖居士	不明	板碑形	花崗岩	229			
42	初代藩主忠勝弟	酒井内匠助忠末	洞源院殿特巖堅英居士	1674.1028	板碑形	花崗岩	268			
42	不明	不明(女)	瑞仏院殿元祥華雲大姉	1704.0905	別石五輪塔	花崗岩	209			
44	2代藩主忠直娘	不明(女)	寿昌院殿玉林元耀大姉	1711.1010	別石五輪塔	花崗岩	219			
45	酒井伊織家当主	酒井内匠助忠移	暁性院殿心源亮徹居士	1806.0218	楡形	花崗岩	218			
46	不明	不明(女)	玄窓院殿廓室英心大姉	1790.0923	楡形	花崗岩	212			
47	不明	不明(女)	浄鏡院殿蘭室春芳大姉	1807.0127	楡形	花崗岩	213			
48	不明	不明(?)	妙春	1650.0116						
48	不明	不明(男)	慈眼坊日章大徳	1667.0716	宝篋印塔	凝灰石	224			
48	不明	不明(?)	法嚴守珍	1649.0505						
49	不明	不明(女)	元院殿□□□□大姉	1669.□□02	別石五輪塔	花崗岩	221			
50	不明	不明(男)	□禅定門	1668.□□09	別石五輪塔	伊豆石	228			
51	不明	不明(女)	清院殿南窓妙□大姉	1663.0522	別石五輪塔	伊豆石	212			
52	不明	不明(男)	瑞性院殿嶺雲英俊居士		明治以降につき未調査					
53	不明	不明(男)	少林院殿廓然正道居士	1801.0528	楡形	花崗岩	213			
54	不明	不明(男)	法修院玄洞素契居士							
	不明	不明(女児)	瓊華院瑞香知仙童女							
	不明	不明(女児)	錦樹院紅露慧顔童女							
	不明	不明(女児)	春興院梅林玉芳童女							
	不明	不明(男児)	青露實梅童子							
	不明	不明(男児)	一相是泡童子		不明	楡形	伊豆石	148		
	不明	不明(男児)	霜露童子							
	不明	不明(男児)	雪圍禅童子							
	不明	不明(女児)	幻林智光孩女							
	不明	不明(女児)	露合舜英童女							
不明	不明(男児)	如幻了直童子								
不明	不明(男児)	梅顔幽芳孩子								
55	不明	不明(男児)	□量院殿巖山良為禅童子		明治以降につき未調査					

墓標番号は図3に対応する

表9-1 空印寺酒井家墓所の石灯籠とその奉納者(1)

墓	被供養者	数	石材	紀年銘	奉納者	石高	役職	家格	
①	酒井忠勝	2	1	花崗岩	1662.0712	酒井内匠忠末	6200石	城代	酒井伊織家
			1	花崗岩	1662.0712	三谷□□金之□	不明	不明	不明
②	酒井忠直	7	1	花崗岩	1682.0710	廣澤兵庫重威	650石	奉行	平士
			1	花崗岩	1682.0710	酒井伊織(忠倚)	3200石	家老	酒井伊織家
			1	花崗岩	1682.0710	松田傳左衛門正澄	600石	城代	二ノ間席
			1	花崗岩	1682.0710	都筑外記秀久	2600石	城代	二ノ間席
			1	花崗岩	1682.0710	谷口市之丞重政	500石	家老	二ノ間席
			1	花崗岩	1682.0710	三浦七兵衛尚正	1600石	家老	二ノ間席
			1	花崗岩	1682.0710	深栖九郎右衛門季林	1300石	大頭	二ノ間席
		1	花崗岩	1682.0710	河村伊兵衛久重	300石	不明	不明	不明
			□田三右衛門修□		不明	不明	不明	不明	
			小林彌四右衛門正□		不明	不明	不明	不明	
	足立七左衛門勝興	400石	老役		三ノ間席				
			師岡丹右衛門成季	200石	大目付	平士			
③	酒井忠隆	6	1	花崗岩	1686.0321	柘植五郎左衛門直政	400石	不明	不明
			1	花崗岩	1686.0321	三浦七兵衛尚正	1600石	家老	二ノ間席
			1	花崗岩	1686.0321	林野作兵衛直定	3000石	城代	二ノ間席
			1	花崗岩	1686.0321	酒井伊織忠倚	3200石	家老	酒井伊織家
			1	花崗岩	1686.0321	都筑外記秀久	2500石	老役	三ノ間席
			1	花崗岩	1686.0321	松田傳左衛門秀澄(正澄)	600石	城代	二ノ間席
④	酒井忠圀	9	1	花崗岩	1706.0908	都筑丹下秀堅	1500石	大頭	二ノ間席
			2	花崗岩	1706.0908	小泉治部左衛門安常	800石	老役	三ノ間席
			1	花崗岩	1706.0908	酒井伊織忠祖	3200石	大頭	酒井伊織家
			1	花崗岩	1706.0908	三浦七兵衛尚正	1600石	家老	二ノ間席
			1	花崗岩	1706.0908	武久莊兵衛昌功	不明	不明	不明
			1	花崗岩	1706.0908	小原平助正利	400石	城代	二ノ間席
			1	花崗岩	1706.0908	林野市之進直頼	1700石?	大身分?	三ノ間席?
			1	花崗岩	1706.0908	渡邊助左衛門成廣	200石	不明	不明
				大谷新助正澄		300石	近習頭	平士	
			近藤丹右衛門貞恒	400石		老役	三ノ間席		
			鈴木三太夫重行	400石	大目付	平士			
⑤	酒井忠音	8	1	花崗岩	1735.0518	谷口九郎左衛門永貞	500石	老役	三ノ間席
			1	花崗岩	1735.0518	足立七左衛門正興	500石	城代	二ノ間席
			1	花崗岩	1735.0518	岡團兵衛正信	500石	家老	二ノ間席
			1	花崗岩	1735.0518	酒井伊織忠敬	3200石	家老	酒井伊織家
			1	花崗岩	1735.0518	深栖主悦寅邑	1150石	城代	二ノ間席
			1	花崗岩	1735.0518	鈴木半左衛門政興	500石	老役	三ノ間席
			1	花崗岩	1735.0518	都筑喜兵衛秀安	600石	老役	三ノ間席
			1	花崗岩	1735.0518	山田基内盛明	400石	老役	三ノ間席
			塩野次郎右衛門伯眞	200石		用人	平士		
			吉田卯左衛門重直	200石		用人	平士		
			中根兵右衛門明守	230石	用人	平士			
⑥	酒井忠存	7	1	花崗岩	1740.0822	深栖主悦寅邑	1150石	城代	二ノ間席
			1	花崗岩	1740.0822	岡團兵衛正信	500石	家老	二ノ間席
			1	花崗岩	1740.0822	酒井伊織忠敬	3200石	家老	酒井伊織家
			1	花崗岩	1740.0822	山田基内盛明	400石	老役	三ノ間席
			1	花崗岩	1740.0822	谷口九郎左衛門永貞	500石	老役	三ノ間席
			1	花崗岩	1740.0822	小林衛盛貞誠	500石	城代	二ノ間席
			1	花崗岩	1740.0822	吉田卯左衛門重直	200石	用人	平士
			中根平右衛門明守	230石		用人	平士		
					山口庄右衛門安固	200石	用人	平士	

表9-2 空印寺酒井家墓所の石灯籠とその奉納者(2)

墓	被供養者	数	石材	紀年銘	奉納者	石高	役職	家格			
⑦	酒井忠用	9	1	花崗岩	1775.0927	宮地瀬兵衛義方	400石	老役	三ノ間席		
			1	花崗岩	1775.0927	高木清太夫資達	200石	用人	平士		
			1	花崗岩	1775.0927	安倍玄蕃季興	1000石	大頭	二ノ間席		
			1	花崗岩	1775.0927	松田一郎左衛門秀世	400石	大身分	三ノ間席		
			1	花崗岩	1775.0927	足立七左衛門貞興	500石	城代	二ノ間席		
			1	花崗岩	1775.0927	都筑貢秀俊	600石	老役	三ノ間席		
			1	花崗岩	1775.0927	深栖典膳緝光	1150石	城代	二ノ間席		
			1	花崗岩	1775.0927	酒井伊織忠為	3000石	大頭	酒井伊織家		
			1	花崗岩	1775.0927	大河原權太経隆	200石	用人	平士		
					岡見太郎直仏	200石	用人	平士			
⑧	酒井忠與	8	1	花崗岩	1762.0618	大森十右衛門元長	500石?	不明	不明		
			1	花崗岩	1762.0618	武久莊兵衛昌英	900石	老役	三ノ間席		
			1	花崗岩	1762.0618	山田甚五左衛門盛頁(負?)	400石?	不明	不明		
			1	花崗岩	1762.0618	足立七左衛門貞興	500石	城代	二ノ間席		
			1	花崗岩	1762.0618	江見求馬昌澄	1000石	大頭	二ノ間席		
			1	花崗岩	1762.0618	酒井凶書助忠實	3000石	大頭	酒井伊織家		
			1	花崗岩	1762.0618	小林衛盛貞誠	500石	城代	二ノ間席		
			1	花崗岩	1762.0618	山口治兵衛安定	400石?	不明	不明		
								武久弥平太昌豊	200石	用人	平士
								藤野宗橋吉政	200石	用人	平士
								鹿野休左衛門恒隆	200石	用人	平士
					鹿野勤左衛門(勤助)昌之	200石	用人	平士			
					坂大八重(茂)郷	200石	用人	平士			
⑨	酒井忠貫	8	1	花崗岩	1806.0112	深栖典膳緝光	1150石	城代	二ノ間席		
			1	花崗岩	1806.0112	三浦主馬助義生	不明	不明	不明		
			1	花崗岩	1806.0112	岡團兵衛正己	500石?	老役以上?	三ノ間席?		
			1	花崗岩	1806.0112	都筑丹下秀貞	1000以上?	不明	不明		
			1	花崗岩	1806.0112	大嶋莊左衛門久敬	400石	老役	三ノ間席		
			1	花崗岩	1806.0112	三浦又兵衛義直	500石	不明	不明		
			1	花崗岩	1806.0112	酒井鶴太郎忠壽	不明	不明	不明		
			2	花崗岩	1806.0112	鈴木三太夫重陰(檢)	不明	不明	不明		
⑩	酒井忠進	8	1	花崗岩	1828.0127	松田傳左衛門秀節	400以上?	不明	不明		
			1	花崗岩	1828.0127	江見求馬盛行	不明	不明	不明		
			2	花崗岩	1828.0127	酒井伊織忠移	不明	不明	酒井伊織家		
			1	花崗岩	1828.0127	安倍将監季誠	800石	老役	三ノ間席		
			1	花崗岩	1828.0127	三浦主馬助義質	不明	不明	不明		
			1	花崗岩	1828.0127	都筑丹下秀貞	1000石以上?	不明	不明		
			1	花崗岩	1828.0127	大谷金次郎正芳	160石以上?	不明	不明		
								足立七左衛門経興	500石以上?	不明	不明
⑪	酒井忠順	8	1	花崗岩	1853.0121	武久莊兵衛昌徳	700石	組頭以上?	三ノ間席?		
			2	花崗岩	1853.0121	酒井内匠之助忠恕	3000石?	家老?	酒井伊織家		
			1	花崗岩	1853.0121	都筑喜兵衛(頼母)秀之	450石	老役	三ノ間席		
			1	花崗岩	1853.0121	江坂八郎兵衛正誼	不明	不明	不明		
			1	花崗岩	1853.0121	都筑外記秀好	1000石	大頭	二ノ間席		
			1	花崗岩	1853.0121	岡見左膳直往	400石	老役	三ノ間席		
			1	花崗岩	1853.0121	山口治兵衛重威	400石?	用人	平士		
								小川太郎左衛門元孚	250石	京都勤番	不明
								坂大八輝郷	400石	老役	三ノ間席
								駒林喜内正言	200石	老役	三ノ間席
					恵藤多志馬助長久	150石	奉行	平士			

表9-3 空印寺酒井家墓所の石灯籠とその奉納者(3)

墓	被供養者	数	石材	紀年銘	奉納者	石高	役職	家格	
⑬	酒井忠氏	5	1	花崗岩	1876.0121	山川貞蔵	不明	不明	不明
						可児純一郎	不明	不明	不明
						佐伯成允	不明	不明	不明
						吉井徳蔵	不明	不明	不明
						赤松雅宏	不明	不明	不明
		野間里孝	不明	不明	不明				
		1	花崗岩	1876.0121	酒井忠修	不明	不明	不明	
					酒井忠成	不明	不明	不明	
					酒井忠平	不明	不明	不明	
					酒井忠晋	不明	不明	不明	
					池田良三	不明	不明	不明	
					糟谷宗庵	不明	不明	不明	
		1	花崗岩	1876.012	萩野氏ふさ(ふじ?)	不明	側室	不明	
					中上氏さき	不明	側室	不明	
					河野氏れん	不明	側室	不明	
		1	花崗岩	1876.0121	酒井宇瓶	不明	不明	不明	
					酒井金八郎	不明	不明	不明	
		1	花崗岩	1876.0121	池田良三	不明	不明	不明	
					中山茂徳	不明	不明	不明	
寺田敬吾	不明				不明	不明			
児玉定福	不明				不明	不明			
宮地右金吾	不明				不明	不明			
糟谷宗庵	不明				不明	不明			
杉山盛勝	不明				不明	不明			
和田義比	不明				不明	不明			
武久昌孚	不明				不明	不明			
石原信敬	不明	不明	不明						
20	酒井佐内	1	1	花崗岩	1726.0605	不明	不明	不明	
26	酒井一學	4	1	花崗岩	1750.1005	不明	不明	不明	
			1	花崗岩	1750.1005	不明	不明	不明	
			1	花崗岩	1750.1005	不明	不明	不明	
			1	花崗岩	1750.1005	不明	不明	不明	
不明	不明	1	1	花崗岩	不明	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	不明	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	不明	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	不明	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	不明	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	紀年銘なし	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	紀年銘なし	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	紀年銘なし	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	紀年銘なし	不明	不明	不明	
	不明	1	1	花崗岩	紀年銘なし	不明	不明	不明	

空印寺の酒井家墓所は基本的に墓所の右奥を起点として次第に門の方へ順次墓標が造立されていることから、最初に建てられたのは、忠利夫妻の墓標でなく、それらより奥に位置する寛永13年(1636)に死亡した初代藩主忠勝の娘仙子(養雲院)の日引石製板碑形墓標と思われる。それ以後墓所の正面奥、後瀬山側には右から順に5代藩主忠音までの墓標が営まれ、6代忠存以降は、手前に墓標が建てられた。一方、子息女の墓は仙子の墓の墓を起点として、後瀬山を背にする歴代藩主墓と直行するように墓所右手奥から手前に一直線に並ぶように墓標が造立された。墓標の石材は1660年代以降地元産の日引石から瀬戸内産の花崗岩に替わるが、18世紀後半以降、藩主墓は全て花崗岩なのに対して一部の子息女墓には再び日引石が用いられるようになり、石材に階層差が現れる。

(2) 空印寺酒井家墓所における献灯籠

墓標が原位置を保っているのに対して、墓前に奉献されていた石灯籠は酒井家の墓所だけでなく空印寺の境内各所に散在しており、移動しているものも少なくない。

現存する石灯籠は、初代藩主忠勝2基、2代藩主忠直7基、3代藩主忠隆6基、4代藩主忠圀9基、5代藩主忠音8基、6代藩主忠存7基、7代藩主忠用9基、8代藩主忠興8基、9代藩主忠貫8基、10代藩主忠進8基、11代藩主忠順8基、13代藩主忠氏5基、2代藩主忠直の六男佐内1基、7代藩主忠用長男一學4基、奉献先不明11基の計101基である(表9)。藩主墓へ奉献された石灯籠の数は、初代藩主忠勝を除き大きな差は見られない。

前述した江戸長安寺とは異なり、国元の空印寺の酒井家墓所の石灯籠は、確認される限り全て家臣によって奉献されており、藩主の近親者が奉献したものは見当たらない。藩主墓への石灯籠の奉献には、9代藩主忠貫と13代藩主忠氏を除き、いずれも家老の酒井伊織家が関与している。400石を超す老役以上は主として単独で石灯籠を奉献しているのに対して、400石未満の平士クラスの用人層は2～6名程度が集まって一つの石灯籠を奉献している。

4. 小浜心光寺の墓所

寺名は初代藩主忠勝の側室竹子(心光院)の戒名に由来する。後瀬山の斜面に設けられた酒井家墓所には側室の墓だけが6基存在する(図5)。墓は斜面に雛壇状に構築された4か所の平場に分散しており、心光院の墓所が最上段に位置する。寛永18年(1641)に亡くなった心光院の墓標は日引石製の宝篋印塔、最も新しい明治2年(1869)に亡くなった14代藩主忠禄の側室萬亀(超顔院)の墓標は楕形で、それ以外の4基はいずれも笠塔婆である(表10)。このうち石灯籠の奉献がみられるのは、初代藩主忠勝の側室竹子と5代藩主忠音の側室武藤梅子の墓前で、7代忠用の側室2名と12代忠義の側室三輪の墓には石灯籠は伴っていない。明治以降に亡くなった14代忠禄の側室萬亀の墓には石灯籠の奉献が復活している。



図5 小浜心光寺酒井家墓所図

表10 心光寺酒井家墓所の墓標一覧

墓標 番号	被供養者				墓 標			献灯笼	
	分 類	俗 名	戒 名	没年月日	型式	石材	高 cm	基数	人数
1	初代藩主忠勝側室	竹子	心光院殿生誉瑣琳大姉	1641.0314	宝篋印塔	日引石	397	1	不明
2	5代藩主忠音側室	武藤梅子	春岳院殿寶譽柳顔貞樹大姉	1751.0120	笠塔婆	花崗岩	251	2	不明
3	7代藩主忠用側室	不明	秋爽院紅譽涼楓大姉	1749.0813	笠塔婆	日引石	216		
4	7代藩主忠用側室	不明	耀信院西譽晃岸妙照大姉	1797.0713	笠塔婆	日引石	222		
5	12代藩主忠義側室	三輪(高塚美和子)	智照院明譽恵光大姉	1844.0616	笠塔婆	花崗岩	217		
6	14代藩主忠禄側室	萬亀(三上萬亀子)	超顔院蓮譽妙華大姉	1869.0712	櫛形	花崗岩	未計測	1	不明

番号は図5に対応する

まとめ

幕府が18世紀末に大名・旗本の事蹟を編纂した『寛政重修諸家譜』には遺体を葬った本葬墓を指すとみられる藩主の「葬地」が記されている。それによれば江戸・国元の両方に藩主の「葬地」を持つ大名家は207家あるのに対して、藩主全員の「葬地」が国元なのは57家（外様24家・譜代23家・親藩10家）しかない。また高野山を「葬地」とするのは17世紀までで、京都は近隣の大名家4家と大坂城代などの任地での死去を除けば18世紀半ばまでである（岩淵2004・10）。文化5年（1808）版の『武鑑』に基づき、大名家の菩提寺を検討した岩淵令治氏は、記載のある御三卿を除く264家のうち256家が江戸府内に菩提寺を持ち⁸⁾、多くの大名が江戸に寺院を建立ないし中興することで菩提寺を確保したと指摘した上で、藩主の「葬地」を国元に限るのは旧戦国大名および17世紀前半までに成立した譜代で、多くは18世紀以降に転封を経験していない家であるとした（岩淵2004）。

本稿で検討した若狭小浜藩主酒井家は、小浜に入部した寛永11年（1634）以降、明治4年（1871）の廃藩置県までの間、一度も転封を経験したことの無い譜代大名であるが、江戸と国元の両方に菩提寺を営んでいる。小浜藩主酒井家の墓制を検討した結果、次のようなことが見えてきた。

1. 江戸の菩提寺が藩主だけでなく裏方・子女を含む大名家墓所として確立するには、本葬・分霊の原因である参勤交代制が敷かれてから四半世紀以上の時間を要した。その間、裏方は嫁ぎ先ではなく実家に縁のある寺院に葬られることもあった。
2. 分霊墓が作られるのは、基本的には藩主に限られ、藩主家一族であっても藩主以外は余程特殊な事情がない限り分霊墓は営まれない（表11）。
3. 江戸で死亡した藩主は江戸に本葬墓、国元に分霊墓が作られ、反対に国元で亡くなった藩主は国元に本葬され、江戸には分霊墓が営まれた。なお国元と江戸で同じ型式の墓標が採用された（表11）。
4. 江戸の菩提寺では藩主と裏方で墓域が分かれており、国元の小浜では側室の墓は藩主家とは別の寺に営まれた。
5. 江戸・国元とも本葬・分霊に関わらず、墓標や墓前の石灯籠等は全く同じように造立されており、外見上は本葬墓なのか分霊墓なのか識別できない。
6. 幕藩制の解体により明治以降、旧藩主の分霊墓は作られなくなった（表11）。
7. 酒井家墓所では板碑形が最上位の墓標型式で、専ら側室の墓に用いられた笠塔婆や、家老酒井伊織家当主の墓や藩主の庶子の墓に採用されている櫛形は、板碑形よりも格下に位置づけられていた（表11）。
8. 江戸の本葬墓は、大型蔵骨壺に火葬骨が納められた初代藩主忠勝を除き、確認される限り全て土葬で、石室漆喰檜内の木棺に埋葬されており、江戸の大名墓では一般的である。
9. 墓前へ奉献された石灯籠の数は、初代藩主忠勝が最も多く、それ以降4代藩主まで17世紀代は次第に数が減り、18世紀以降幕末まで、すなわち5代目から11代目まではほぼ同数程度で、近代以降（12・14代、13代）半減する（図6）。

表11 小浜藩主酒井家の墓所と墓標

藩主との関係	被供養者	墓 所		
		長安寺	空印寺	心光寺
先祖	酒井家当主 酒井忠利		★	
藩主本人	初代藩主 酒井忠勝	★	★	
	2代藩主 酒井忠直	★	★	
	3代藩主 酒井忠隆	★	★	
	4代藩主 酒井忠圀	★	★	
	5代藩主 酒井忠音	★	★	
	6代藩主 酒井忠存	★	★	
	7代藩主 酒井忠用	★	★	
	8代藩主 酒井忠與	★	★	
	9代藩主 酒井忠實	★	★	
	10代藩主 酒井忠進	★	★	
	11代藩主 酒井忠順	★	★	
	13代藩主 酒井忠氏		★	
	12・14代藩主 酒井忠義(忠禄)	★		
子息子女	初代藩主長男 酒井忠朝		★	
	酒井忠利の娘 種子		●	
	初代藩主二男 酒井忠経		▲	
	初代藩主三男 酒井可一		★	
	初代藩主娘 仙子		★	
	2代藩主六男 酒井佐内		▽	
	2代藩主娘 名前不明		●	
	2代藩主娘 名前不明		●	
	5代の長男 酒井忠通	★		
	5代の二男 酒井忠龍	★		
	5代の六男 酒井直五郎	★		
	5代の八男 酒井秀之助	★		
	5代の九男 酒井駒之助	★		
	5代の十男 酒井忠旨	★		
	7代の娘 幸子	▲		
	7代の長男 酒井一學		★	
	7代の三男 名前不明		★	
	7代の娘 悦子		■	
	7代の男 酒井忠之進	★		
	9代の長男 酒井忠望	★		
	10代の長男 酒井忠敏	★		
	10代の三男 長三郎	★		
	10代藩主の四男 名前不明		★	
	10代藩主の五男 金之助		★	
	10代の七男 悦之丞	★		
	10代の娘 鎰子	★		
	10代の娘 寿子	★		
	10代の娘 名前不明	■		
	10代の妾腹の子 恭丸	不明		
	12代の娘 祐子	★		
	12代藩主の娘 攸子		★	
	13代藩主の娘 貞子		★	
	13代の娘 昌子	不明		
13代の娘 信子	不明			
13代の娘 名前不明	不明			
14代の娘 柳子	不明			
正室	酒井忠利正室 宝鏡院		★	
	9代の正室 久我益子	★		
	10代の正室 練子(高子)	★		
	11代の正室 辰子	不明		
13代の正室 稜子	不明			
側室	初代側室 竹子			◇
	5代側室 武藤梅子			▲
	7代側室 名前不明			▲
	7代側室 名前不明			▲
	9代の側室 名前不明	不明		
	12代側室 三輪			▲
14代側室 萬亀			▲	
弟	初代藩主の弟 酒井忠末		★	
	9代の弟 船越岩之輔影風	不明		
家臣	初代藩主家臣 青山一學		★	
	酒井伊織家当主 酒井忠實		■	
	酒井伊織家当主 酒井忠移		■	

本葬地

★板碑形 ◇宝篋印塔 ●別石五輪塔
▲笠塔婆 ■櫛形 ▽不定形

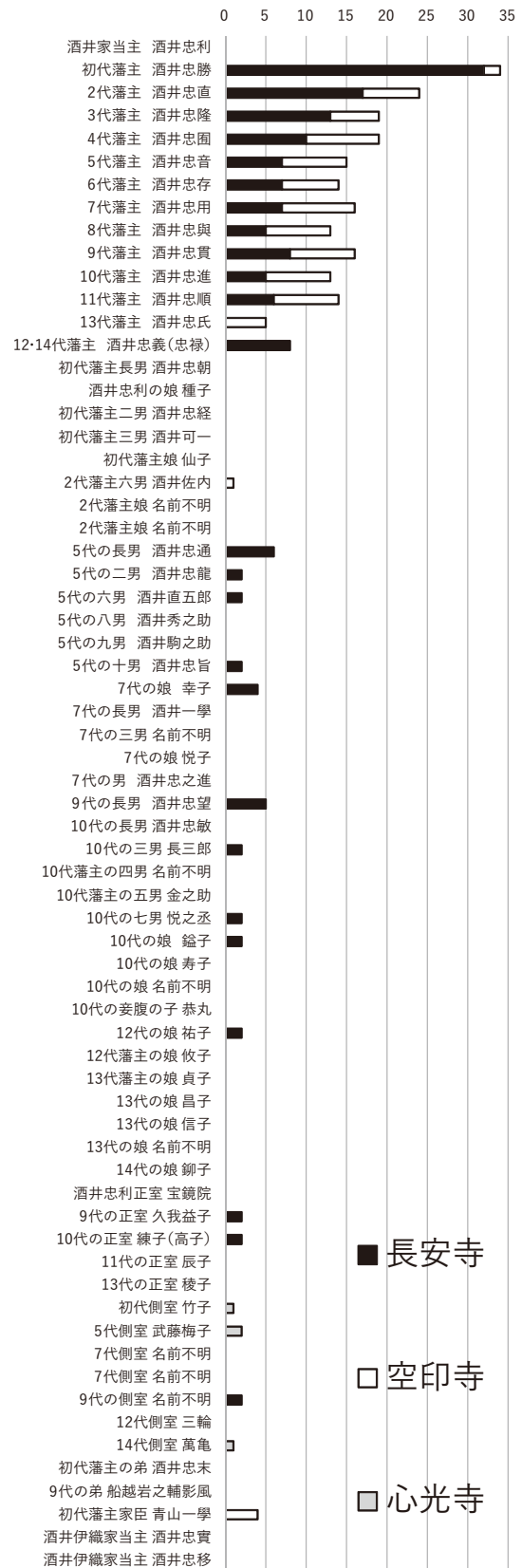


図6 小浜藩主酒井家墓所の献灯籠数

10. 墓前への石灯籠の奉獻は、江戸では裏方・子息女・親戚などの一族と家臣、お付きの者、奉行・用人クラス以上の家臣により行われたが、国元の小浜では専ら家老の酒井伊織家をはじめとする家臣だけが行った。国元で墓前に石灯籠の奉獻が認められるのは藩主酒井家のなかでも一部に限られ、家老の酒井伊織家を含め家臣の墓には石灯籠は一切伴わない。

謝辞

本論を執筆するにあたり、酒井家墓所の調査に関して空印寺住職の岸本祐孝氏にお世話になった。また酒井家文庫の資料の使用に関して小浜市立図書館と学習院女子大学の岩淵令治教授にお世話になった。本論で使用した小浜藩士のデータベースは、弘前大学人文社会科学部文化財論ゼミナールに所属した高森愛未さんと吉田佳乃子さんが卒業研究で作成したものである。末筆ではありますがこれらの方々に感謝申し上げます。

本研究はJSPS科研費 JP26244044の助成を受けたものです。

【註】

- 1) 藩主を頂点とした社会（藩）全体の中での大名墓を位置づけた研究としては、加賀金沢藩前田家墓所を含む野田山墓地の調査・研究（金沢市・金沢市埋蔵文化財センター2003、金沢市2008・2012）や松前城下町の近世墓標の悉皆調査・研究（関根編2012）などが挙げられる。
- 2) 小浜藩士のデータベースは、小浜市立図書館酒井家文庫に収められている「酒井家編年史料稿本」（所蔵番号1-113）・「小浜由緒書 元治元」（2-40）・「江戸由緒書 元治元」（2-41）・「酒井家禄高邸宅沿革」（12-6）と、『小浜市史 藩政史料編Ⅱ』所収の安永3年（1774）の「小浜藩家臣由緒書」ならびに安永3年（1774）と元治元年（1864）の「小浜藩分限帳」を用いて作成した。
- 3) 長安寺の酒井忠勝の墓前には、忠勝の13回忌に当たる延宝2年（1674）に幕府石方棟梁の石屋久兵衛喜廣により製作された縦90cm・横229cm・奥行き70cmもある巨大な手水鉢があった。この手水鉢は、大正13年（1924）の改葬の際に豊島区内の石材店に譲られた後、豊島区立郷土資料館、豊島区立勤労福祉会館を経て、現在は新宿歴史博物館の中庭に展示されている。
- 4) 谷中瑞輪寺には島津朝久の娘で島津忠恒（家久）の養女長寿院（土佐高知藩4代藩主山内豊昌の母）の墓がある。
- 5) 武村雅之2012『関東大震災を歩く』（吉川弘文館）P12～13掲載の表「東京市15区と周辺2町の被害集計」による。
- 6) 『若狭小浜湊の中近世石造物』（科学研究費基盤研究A「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」研究成果報告書3）や第10回大名墓研究会資料集では「特殊な駒形」と呼んできたが、本稿では「板碑形」に改める。
- 7) 納経（石）碑が伴うのは、長安寺に本葬された初代忠勝・5代藩主忠音・6代藩主忠存・11代藩主忠順と5代藩主長男忠通の墓である。なお、長安寺の初代藩主忠勝の墓にあった一石一字納経碑は大正13年（1924）の改葬の際に小浜の空印寺に移され現存する。この碑は六角柱状で、長安寺の住職懶幽が忠勝の百箇日供養として撰文している（関根編2018）。
- 8) 『武鑑』で御府内に菩提寺がないとされた8家のうち4家は実際には御府内に菩提寺が確認され、残る4家のうち3家は江戸近郊に菩提寺があり、江戸やその近郊に菩提寺が確認できないのは全大名家中で高松

藩松平家のみである（岩淵2004）。

【引用・参考文献】

- 赤貝貞 1983「謎の人・酒井忠朝を再調」『若狭地方史研究』1-20 頁、若狭史学会
- 秋本茂陽 1998『江戸大名墓総覧』、金融界社
- 伊東信雄編 1979『瑞鳳殿伊達政宗の墓とその遺品』、瑞鳳殿再建期成会
- 伊東信雄編 1985『感仙殿伊達忠宗・善応殿伊達綱宗の墓とその遺品』、財団法人瑞鳳殿
- 今野春樹 2013「徳川将軍家の墓所構造－階層性の比較－」『近世大名墓の世界』、季刊考古学・別冊 20、165-174 頁、雄山閣
- 岩淵令治 2004『江戸武家地の研究』、塙書房
- 岩淵令治 2010「大名家の墓所・霊廟」『史跡で読む日本の歴史』9（江戸の都市と文化）、142-171 頁、吉川弘文館
- 岩淵令治 2011「近世大名家の葬送儀礼と社会」『国立歴史民俗博物館研究報告』169、353-428 頁
- 岩淵令治 2018「小浜藩酒井家墓所の変容―近世から近代へ―」科学研究費基盤研究 A 石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」公開講演会「石に刻まれた歴史」（2018年8月4日、敦賀市立博物館）発表要旨
- 岡本桂典・井上雅孝編 1988『旧弘前藩主津軽家墓所石塔修復調査報告』、遍照尊院
- 小浜市史編纂委員会 1979『小浜市史 諸家文書編一』
- 小浜市史編纂委員会 1983『小浜市史 藩政史料編一』
- 小浜市史編纂委員会 1985『小浜市史 藩政史料編二』
- 小浜市史編纂委員会 1992『小浜市史 通史編上巻』
- 角川日本地名大辞典編纂委員会編 1989『角川日本地名大辞典 18. 福井県』、角川書店
- 香川県立ミュージアム 2015『高松藩主松平家墓所調査報告書』
- 鹿児島市教育委員会 2017『薩摩藩主島津家墓所（福昌寺跡）調査報告書』、鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書 80
- 金沢市・金沢市埋蔵文化財センター 2003『野田山墓地』、金沢市文化財紀要 200
- 金沢市 2008『野田山・加賀藩主前田家墓所調査報告書』、金沢市文化財紀要 250
- 金沢市 2012『野田山・加賀八家墓所調査報告書』、金沢市文化財紀要 280
- 川越市立博物館 1992「主図合結記」本の川越図と静嘉堂文庫蔵「武蔵川越図」について『博物館だより』6（PDF 版）
- 寛永寺谷中徳川家近世墓所調査団編 2012『東叡山寛永寺徳川将軍家御裏方霊廟』、吉川弘文館
- 木村礎・藤野保・村上直編『藩史大辞典第3巻 中部編Ⅰ 北陸・甲信越』、雄山閣
- 久留米市教育委員会 2015『久留米藩主有馬家墓所Ⅰ』久留米市文化財調査報告書 358
- 久留米市教育委員会 2017『久留米藩主有馬家墓所Ⅱ』久留米市文化財調査報告書 384
- 幸田町教育委員会 2012『瑞雲山本光寺松平忠雄墓所発掘調査報告 遺構編』、幸田町社寺文化財報告1（考古1）
- 幸田町教育委員会 2013『瑞雲山本光寺松平忠雄墓所発掘調査報告 遺物編』、幸田町社寺文化財報告1（考古2）
- 高知県 2015『土佐藩山内家墓所調査報告書』
- 坂詰秀一監修 2010『近世大名墓所総覧』、ニューサイエンス社
- 坂詰秀一編 2004『池上本門寺 近世大名墓所の調査』、池上本門寺
- 坂詰秀一・松原典明編 2013『季刊考古学・別冊 20 近世大名墓の世界』、雄山閣
- 島津誠光 1970『小浜藩 昭和45年度レポート』
- 鈴木尚・矢島恭介・山辺知行 1967『増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体』、東京大学出版会
- 関根達人 2002「近世大名墓における本葬と分霊」『歴史』99、1-29 頁、東北史学会
- 関根達人 2011「石廟の成立と展開」『日本考古学』32、117-143 頁、日本考古学協会

- 関根達人 2013「権力の象徴としての大名墓」『季刊考古学』別冊 20 (近世大名墓の世界) 24-33 頁、雄山閣
- 関根達人 2018『墓石が語る江戸時代』、歴史文化ライブラリー 464、吉川弘文館
- 関根達人編 2012『松前の墓石から見た近世日本』、北海道出版企画センター
- 関根達人編 2018『若狭小浜湊の中近世石造物』科学研究費基盤研究 A「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」研究成果報告書 3
- 高岡市教育委員会 2008『高岡市前田利長墓所調査報告』
- 武村雅之 2012『関東大震災を歩く』、吉川弘文館
- 谷川章雄 1991「江戸の墓地の発掘」『蘇る江戸』79-111 頁、江戸遺跡研究会編、新人物往来社
- 谷川章雄 1996「江戸の墓の埋葬施設と副葬品」『江戸時代の墓と葬制』、125-140 頁、江戸遺跡研究会発表要旨集
- 大名墓研究会編 2010～2018『第 1～10 回大名墓研究会資料集』
- 大名墓研究会編 2014『近世大名墓の成立』、雄山閣
- 土井卓治・佐藤米司編 1979『葬送墓制研究集成』1 (葬法)、名著出版
- 彦根市教育委員会 2009『国指定史跡「彦根藩主井伊家墓所」調査報告書』
- 福井県立若狭歴史民俗資料館 2009『若狭小浜藩一大老酒井忠勝とその家臣団』
- 文化庁文化財部 2015『月刊文化財 626 大名墓所が語る近世社会』、第一法規
- 牧田忠左衛門近俊 1693『若狭郡懸志』
- 松原典明 2012『近世大名葬制の考古学的研究』、雄山閣
- 松原典明編 2018『近世大名葬制の基礎的研究』、雄山閣
- 松本健 1992「大名家の葬制」『國學院雑誌』93-12、1-8 頁
- 港区教育委員会 1986『港区三田濟海寺長岡藩主牧野家墓所発掘調査報告書』